

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 伊丹市

自治体名：兵庫県伊丹市

担当課名：保健体育課

電話番号：072-784-8087

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

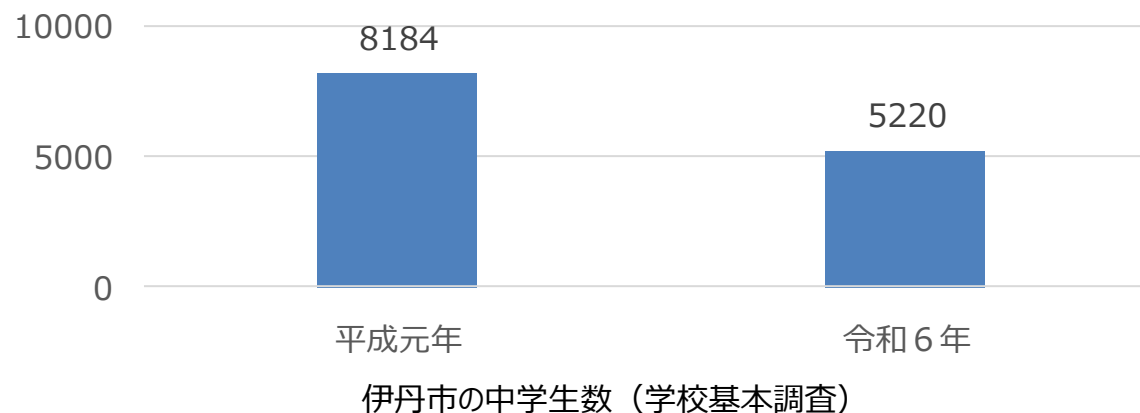
面積	25.00 km <sup>2</sup>
人口	195,005 人
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	5,220 人
部活動数	100 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

伊丹市では8校の市立中学校に100の運動部活動があり、運動部の部活動加入率は61%である。少子化の進展による部員数の減少及び専門的な指導を行える教員の不足等により、全ての活動を今後維持していくことが難しくなっている。

中学生のスポーツ環境を持続可能な形で維持するために、令和5年度に「伊丹市中学校部活動の地域移行に係る基本方針」を策定し、関係者間で令和8年度中に、原則平日休日を問わず学校部活動を地域クラブ活動へ移行するという今後のスケジュールを共有した。

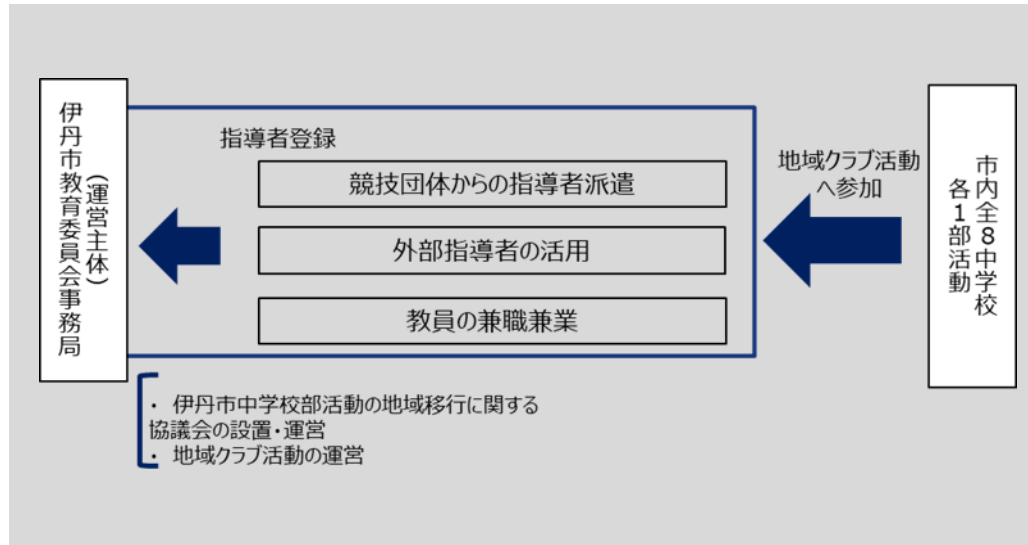
また、令和6年度には保護者に対して、全ての伊丹市立小・中学校で説明会を実施し、保護者理解の醸成を図った。また、兼職兼業の教員をはじめとして関係者で構成する種目別検討会を種目ごとに開催しながら、今後の地域クラブ活動のあり方について検討を進めている。



## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・保健体育課：全体統括
- ・学校教育課：学校の経営管理、文化部の統括
- ・職員課：教職員の人事関係
- ・スポーツ振興課：運動部実証事業の予算執行

##### ◎首長部局

- ・文化振興課：文化部実証事業の予算執行

### 年間の事業スケジュール

令和6年度	内容
5～6月	子どもたちへ活動希望についてアンケート
6～11月	種目別検討会による受け皿整備等検討
7～10月	小・中学校で保護者説明会
10～11月	届出地域クラブ活動を募集
R7.1～2月	新入生説明会等で保護者へ説明
R7以降	可能な地域クラブ活動から実施

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	8 校	実施した地域クラブ総数	8 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（8 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	16 人	全体の運営スタッフ数	なし

#### ②各クラブに関すること

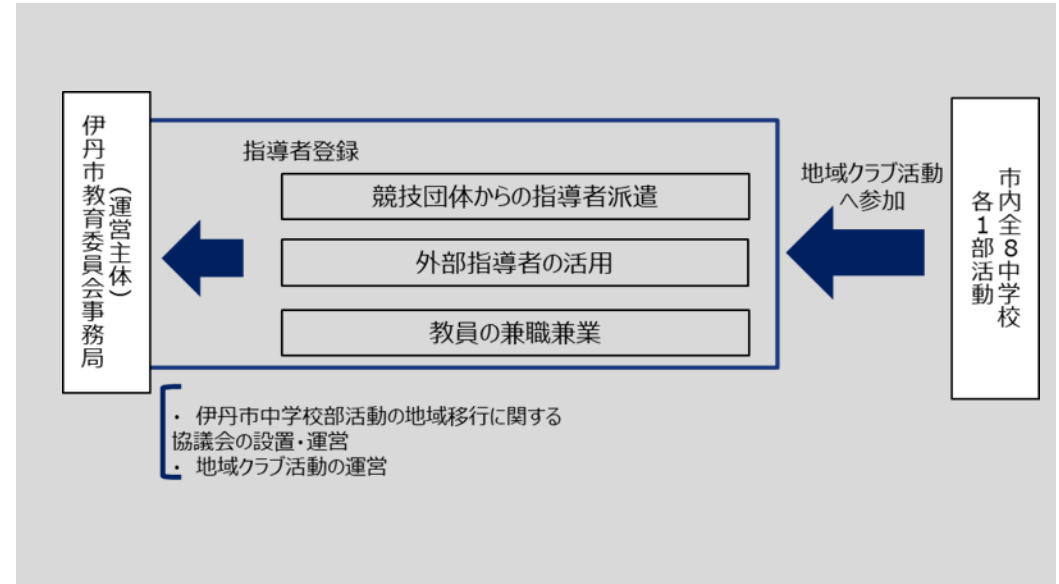
クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法	
伊丹柔道クラブ	市教委直営	柔道	週 1 回程度	部活動の時間	30人 1年生13人 2年生6人 3年生11人	R6.7～ R7.2	北中学校 /天王寺 川中学校	2人	なし	なし	従前の部活動の例による	
伊丹西BBC		男子 バスケット ボール			27人 1年生7人 2年生11人 3年生9人		西中学校	2人				
伊丹南BBC					42人 1年生14人 2年生12人 3年生16人		南中学校	3人				
荒牧BBC					27人 1年生10人 2年生4人 3年生13人		荒牧 中学校	2人				
松崎クラブ					女子 ソフトテニス		19人 1年生7人 2年生6人 3年生6人	松崎 中学校				2人
笹原サッカー					サッカー		36人 1年生13人 2年生12人 3年生11人	笹原 中学校				2人
東中 なぎなた部			なぎなた	29人 1年生16人 2年生9人 3年生4人	東中学校		3人					

## 主な取組例

### ●伊丹柔道クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道
運営団体名	(直営)
期間と日数	R6.5~R7.2 休日週1回
指導者の主な属性	兼職兼業の教員、民間
活動場所	北中学校、天王寺川中学校
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

記入例：

- 指導者(兼職兼業の教員) 1名  
役割：生徒の指導、市教委との連絡調整
- 指導者(民間) 1名  
役割：指導の補佐

## 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 「伊丹市中学校部活動の地域移行に関する協議会」(以下、「協議会」という。)を設置し、関係団体・市関係部局との連絡・調整、助言等を行う。
- 運動部・文化部の実証事業に係る評価と課題の抽出を行い、来年度以降の本市の方針を協議する。

##### 取組の成果

- 協議会において2回の本会と1回の部会を開催し、学識経験者、保護者、地域のスポーツ団体代表者、地域の文化芸術団体代表者、学校関係者、関係行政機関の職員などから様々な意見を聴取した。  
(いただいたご意見の代表例)
  - ✓ 移行後も中学校施設を拠点にした活動(登録地域クラブ)が重要
  - ✓ 文化部の地域移行は校舎棟を地域に開放していくことが重要、セキュリティシステムについても見直しが必要
  - ✓ 地域の指導者が生業と両立できるよう、活動時間帯への配慮が必要
- 市内全中学校にて各校1部活動を地域クラブ活動として実施した。

##### 今後の課題と対応方針

- さらに地域クラブが自立した運営ができるよう、取組をすすめる。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

- 部活動から移行した地域クラブに地域指導者を配置する。
- 指導者の質の確保に向け、指導者の登録手続きを定める。

##### 登録者属性

- 兼職兼業の教員
- 民間人

##### 種目

- 柔道
- バスケットボール
- サッカー
- なぎなた
- ソフトテニス

##### 資格有無等

- JSPO認定コーチ
- 各種目協会ライセンス保持者等

##### 取組の成果

- 年度を通じて安定して指導者配置を実現した。
- 兼職兼業の教員を中心として種目別検討が立ち上がり、教員をはじめとして関係者が地域クラブの立ち上げにかかわるようになった。

##### 今後の課題と対応方針

- 平日・休日それぞれの指導者の確保について検討する必要がある。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- 伊丹市スポーツ協会各種目団体等と連携し、指導者の継続的な確保を図る。

##### 取組の成果

- 各種目協会（バスケットボール、なぎなた）関係者から、民間の指導者を確保することができた。（確保の際の工夫）
  - ✓ 平日の学校部活動の外部指導者を引き続き地域クラブの指導者とした。
  - ✓ 各種目団体に地域移行の現状と今後の展開について丁寧な説明、対話を行った。
  - ✓ 教員を交えた種目ごとに設置する地域移行の「種目別検討会」に種目団体の関係者が参加、令和8年度以降の本格移行を含めた長期的なビジョンを共有し、指導者の確保を要請した

##### 今後の課題と対応方針

- 民間の指導者と兼職兼業の教員で連携し、今後の地域クラブ創設に向けて協議を進める。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項

学校部活動では難しいモデルケースの構築を目指す。

①校区に関わらず、生徒が自分のやりたいことを選んで活動できるようにする

②専門性のある指導者の指導や気軽な活動など、ニーズに合わせた形を創る

③誰もが無理せずに維持できる持続可能なスポーツ・文化芸術環境を整備する

##### 活動の詳細

- 多様な形態で活動ができないかについて種目別検討会において検討を行った。

(検討を実施した種目)

陸上	水泳	バスケットボール
バレーボール	ソフトボール	ソフトテニス
サッカー	なぎなた	吹奏楽
軟式野球	柔道	剣道
吹奏楽		

##### 今後の課題と対応方針

- 引き続き校区にとらわれない活動や生徒ニーズに合わせた活動について検討を進める。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

- 生徒の安全保険の加入費用を支援することで、活動中に発生するケガ等に備えるとともに保護者負担の軽減を図る。

##### 取組の成果

- 保護者負担の軽減した。

##### 地域クラブに係る経費

- イニシャルコストの分析  
(発生していない)
- ランニングコストの分析  
1,486千円 (①)  
(内訳)
  - ・指導者謝金 (1,288千円)
  - ・保険料 (198千円)

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

今回の実証事業への参加生徒は210名 (②) であるため、持続的な運営に必要な受益者負担額は7千円程度 (①÷②) と推定されるが、休日のみの実施であること、通年にわたって実施していないことなどを考慮する必要がある。

##### 収支バランス

学校部活動は令和8年度の本格移行まで継続する方針であり、部活動に所属する家庭との負担均衡の観点から受益者負担金は徴収せず、収入は全額国庫委託金と、本市一般財源としている。

##### 今後の課題と対応方針

- 国や都道府県、周辺市の動向を見ながら、経済的弱者への支援について検討する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

- ・ 学校の施設・設備・備品等を使用して、地域クラブ活動を実施する際の利用ルールを整備に向けて検討を行う。

##### 取組の成果

- ・ 種目別検討会において、備品の使用等について検討した。
- ・ 学校の教育課程で使用する物品で地域クラブと共用するもの、地域クラブのみでしようするもの考え方と費用負担について検討した。特に、多様な地域クラブ活動に向け、学校部活動にない種目の受入れる場合の考え方について検討した。
- ・ 学校と共用する物品について、必要な手続きについて検討した。
- ・ 警備システムの分離方法について、分離する施設や棟の考え方について関係部局と協議を行った。

##### 今後の課題と対応方針

- ・ 警備システムなどの調整に向け必要な予算を確保し、対応する。
- ・ 令和8年度の本格移行に備え、備品のルールを整備する。
- ・ 学校施設の活用に必要な施設の活用等に関するルールを学校ごとに策定する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
**ク：その他の取組**



### 取組内容

#### ●取組項目名 ク：その他の取組

##### 取組事項

令和8年度中の完全移行に向けて、多様で安全な地域クラブの確保が急務となっている。そのため、令和6年度は市でガイドラインを制定し、地域クラブの要件化をするとともに、子どもや保護者理解の醸成を最優先事項と

して取り組んだ。継続的な地域クラブの募集の継続により、多様な種目について地域クラブをリスト化し公表した。今後は地域クラブ創設に意欲的な団体等への伴走支援を強化するとともに、マネジメント団体の育成に努める。

##### 地域クラブの要件化とガイドラインの制定

2種類の地域クラブを定義し、それぞれに求める要件と市の支援のあり方についてガイドラインに規定し公表した。

国のガイドラインを満たす団体を「登録地域クラブ」とした他、今後登録が見込まれる団体等を「届出地域クラブ」とし、団体独自のノウハウを尊重しながら、多様な活動を確保した。

##### 地域クラブ確保に係る多様な経路

地域クラブを広く継続的に募るとともに、ガイドラインの遵守事項・留意事項にもとづき団体を審査し、多様で安全な地域クラブを確保した。

兼職兼業のルールを整備するとともに、活動を希望する教員に広く参加を呼び掛けた。また、公共施設の指定管理者に協力を呼び掛け、市教委が地域クラブとして広報した。

##### 子ども・保護者理解の醸成

すべての小中学校において保護者説明会を開催し、保護者の意見を聴取するとともに、いただいた質問については市HPで回答を掲載した。

また、市HPで地域クラブのリストを掲載するとともに、マンガを用いた小学生5・6年生向けの説明資料を作成し、家庭で自分の「やりたい」ことを話し合うように呼び掛けた。

##### 取組の成果

継続的な地域クラブの募集により、63の届出地域クラブを確保した。また、教員をはじめ種目団体等で構成する種目別検討会が設立され、令和8年度に30程度の登録地域クラブが創設される見込みとなっている。現在2回目の保護者説明会を実施中。

##### 今後の課題と対応方針

種目別検討会の開催により地域クラブの創設に向けた協議を継続するとともに、創設に取り組む人材・団体の伴走支援を強化する。また、営利使用をはじめとする学校施設・備品に係るルールを整理するとともに、確保した多様な地域クラブをマネジメントする担い手・中間団体を探す。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- 原則令和8年度中に、平日・休日同時に学校部活動を地域クラブ活動に移行する基本方針を定め、学校説明会の開催などにより保護者理解の醸成を図った。
- 市のガイドラインを作成し、地域クラブの要件化を行った。また、募集を行い、届出地域クラブをリスト化し、生徒・保護者へ市HPで周知した。
- 協議会において関係者から様々な意見を聴取した。
- 兼職兼業の教員による吹奏楽部の種目別検討が立ち上がり、今後、6名の教員が地域クラブの立ち上げにかかわるようになった。
- 兼職兼業の教員、民間双方から指導者を確保することができた。
- 保険料の保護者負担の軽減した他、休日の学校施設の利用について、セキュリティラインなどを考慮し、動線を確認した。

#### ●成果の評価

- 現在、全中学校において2巡目の保護者説明会を実施しており、保護者理解の醸成が進んでいる。
- 届出地域クラブについてはダンス等、これまで部活動にない種目の団体を確保できた。ただし、従前、部活動にある種目の中には団体を確保できていないものもある。
- 協議会でいただいた意見の中で特に中学校施設を利用した地域クラブに注力すべきという意見があり、今後の課題ととらえている。
- 実証事業において指導者の確保と種目別検討会による議論が進んだことは、吹奏楽において今後の地域クラブ創設への足掛かりとなる。
- セキュリティラインの検討については今後の予算が伴うことから早期の着手が必要。
- 備品等の譲渡ルールについては今後、検討すべき課題ととらえている。

#### ●今後に向けて

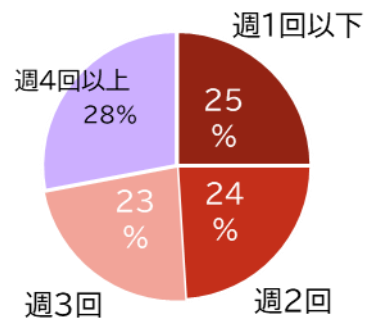
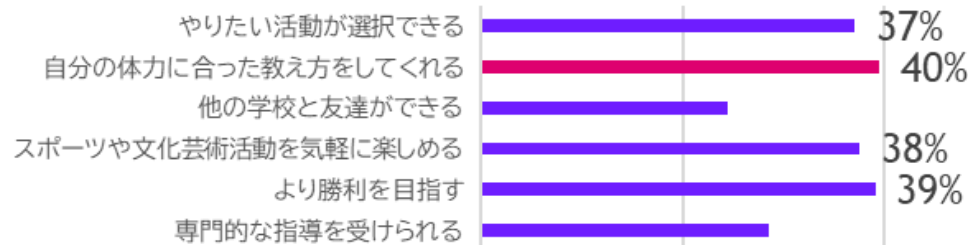
- 令和8年度の完全移行に向け、体制整備を進める。
- 部活動にある種目で団体を確保できていないものについて、引き続き募集を継続する他、変化する生徒ニーズに合わせた団体募集を実施できるよう、子どもたちへの意向をくみ取る取組を行う。
- 中学校施設を利用した地域クラブの創設・参入のしくみ作りを重点的に進める。
- 早期に学校施設のセキュリティラインと動線の調査を行う。校舎棟を中心に休日における学校施設使用、及び備品の譲渡等に係るルール整備を行う。

## 2.実証内容と成果

### アンケート結果・広報資料

伊丹市教委では令和5年5月に全小・中学生に向けて、今後のスポーツ・文化芸術活動についてアンケートを実施し、子どもたちの望む活動のカタチが多様である実態について確認した。

こうした多様な子どもたちのニーズに応えるために、地域クラブを広く公募、リスト化し、市ホームページで紹介している。



【アンケート結果】

出典:伊丹市教育委員会



**「やりたい」を応援**  
地域のスポーツ・文化芸術活動を  
中学生の地域クラブ活動として広報します

**GO FOR IT,  
ITAMI  
CLUB PARTNER**

2024年度 (1次)  
**地域クラブ(届出)募集中**

ITAMI CLUB PARTNER 中学生のスポーツ・文化芸術活動を実施する地域団体を募集します  
10.25 FRI → 11.29 FRI 詳細は市ホームページまで

【お問い合わせ】伊丹市教育委員会事務局 保健体育課 TEL.072-784-8087

【地域クラブ募集チラシ】

出典:伊丹市教育委員会

## 広報資料

### 小学校5・6年生の皆さんへ 部活動の地域移行って何やるの？

- 先生！部活動がなくなるってホント？  
部活動の地域移行のことね！  
ススムくん 小学校の久美せんせい
- 地域移行？  
中学校の部活が地域クラブになるってことね。  
ちいきクラブ  
中学校の義昭せんせい
- 地域クラブでは、学校の先生だけじゃなくて、地域のいろんなコーチや他の学校の友だちと一緒にスポーツや文化芸術なんかを楽しめるようにすることを目指しているわよ。  
地域移行でみんなが「やりたい」ことにチャレンジできるように夢、いろんな地域クラブにはいるしくみを準備しているの。
- でも、なんで今、地域移行なん？  
子どもの数が昔より少なくなっている「少子化」が大きな理由ね。  
中学校の子ども数が減っていくと、部活動に入る人数が減っていき、チームが組めなくなったり、試合やコンクールに出場することができなくなったり・・・部活動をいままでのように続けていくのがむずかしくなっていることが、いろんな所で起きているの。
- 「やりたい」気持ちってとても大事！  
そういう気持ちを地域のひとと一緒に応援するしくみを作っていくことしてるの。
- うん、実はスポーツもやってみたいけど、いろんなことに挑戦してみたいねん！  
そう！「やりたい」ことっていろいろあっていいと思うわ！  
伊丹市ではどんな地域クラブがあるかこれからホームページで紹介していくの。  
スポーツも文化芸術活動もいろんなススムくんの「やりたい」が見つかると思うわね！

伊丹市教育委員会事務局 保健体育課

【子ども向け資料】

出典:伊丹市教育委員会

## 中学校部活動の地域移行

伊丹市教育委員会事務局

### 国の方針と伊丹市の方向性

少子化や働き方の変化などの時代の変化により、昔のように部活動を維持することが難しくなっています。国の方針により、全国各地で地域移行の取組が始まっています。

国の方針と少子化など時代の変化により伊丹市では令和8年度（2026年度）中に**学校部活動を地域クラブ活動へ地域移行します**

### 部活動から地域クラブへ

学校は長い歴史の中、「学校部活動」という形で子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の担い手となってきました。一方で今後、さらに少子化が進むとともに子どものニーズも変化すると見込まれます。こうした変化に対応するために、活動の担い手を地域団体やNPO等「多様な担い手」に移行するしくみ作りを進めます。

担い手	学校部活動	地域クラブ活動
担い手は学校	学校施設	学校施設・個別施設・文化施設
	週5回以内	週1〜5日(週によって柔軟に設定)
	所属する中学校の生徒	柔軟に設定(1校、複数校、多世代)
	部によっては部費・実費	課外に必要な数小額の範囲で会費・実費
	学校の教員 部によっては外部コーチ	地域の指導者

部活動としての活動は令和8年度中に終了

地域クラブ活動をリスト化してご紹介

地域移行に取り組む自治体数

年度	地域移行に取り組む自治体数
R4	114
R5	339
R6	510

多様な担い手

公共施設の指定管理者など  
NPO・公益法人  
地域の文化教室 スポーツクラブ  
民間事業者

多様な活動形

教室・講座に参加 多世代で交流  
スポーツや文化芸術を気軽に楽しむ  
大会やコンクールで勝利を目指す

子どもたちが望む活動の形

Q これからのスポーツ・文化芸術活動についてどんな形のものがあるか教えてください。回答は3つまで選べます。

活動の形	割合
やりたい活動が選択できる	37%
自分の得意に合った数人で行うことができる	40%
他の学校の友達ができる	38%
スポーツや文化芸術活動を気軽に楽しめる	39%
より趣味を伸ばす	
専門的な指導を受けられる	

望む活動日数

Q これからの活動日数がいいと思いますか。

活動日数	割合
週4回以上	28%
週3回	23%
週2回	24%
週1回以下	25%

伊丹市教育委員会事務局

【保護者向け資料】

出典:伊丹市教育委員会

# 2.実証内容と成果

## 広報資料

### 卓球

#### 学校部活動

活動は令和8年度まで

	東	西	南	北	天	松	荒	笹
男子	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	○	○	—	○	○	○	○	○

**登録地域クラブ** 休日・放課後の時間帯に中学校で実施(令和8年度以降) ⇒ **1カ所**で実施予定  
※令和7年度中に詳細を決定し、公表

**届出地域クラブ** 公共施設や学校施設開放等で実施(令和7年度から) ⇒ お問い合わせは公式サイト等へアクセス

### ダンス ~その1~



#### 学校部活動 (設置なし)

**届出地域クラブ** 公共施設や学校施設開放等で実施(令和7年度から) ⇒ お問い合わせは公式サイト等へアクセス

実施主体	活動名	場所	活動時期・頻度	曜日・時間帯	対象	会費等	公式サイト	公式SNS
地域・民間団体	CLスタジオ	伊丹市船原 2-3-10 (CL Studio) 阪急伊丹駅前校) 他	年間 週1回	平日 放課後	中学生	月)BREAKIN/6,900円 水)HIPHOP/8,000円 木)HIPHOP/6,900円		
公式サイト (外部サイトへリンク)	<a href="https://clstudio-official.com/">https://clstudio-official.com/</a>		公式SNS (外部サイトへリンク)	<a href="https://www.instagram.com/clstudio.official/">https://www.instagram.com/clstudio.official/</a>				
教室・講座 公共施設の指定管理者 (まちづくりステーション きらめき)	きららホール フラダンス	きららホール	年間 (シーズン 制) 月2~3回	平日 夜間	中学生以上	7回 4900円 年4シーズン		
公式サイト (外部サイトへリンク)	<a href="https://kirara-itami.com/service/reserve/">https://kirara-itami.com/service/reserve/</a>		公式SNS (外部サイトへリンク)	<a href="https://www.instagram.com/kirara_itami/">https://www.instagram.com/kirara_itami/</a>				
教室・講座 公共施設の指定管理者 (アシックスアムニティ共同体)	緑ヶ丘体育館 ダンスバトン教室	緑ヶ丘体育館	年間 週1回	平日 放課後	中学生 幼児 小学生 (5歳以上)	10回 10800円		
公式サイト (外部サイトへリンク)	<a href="https://www.itami-midorisaoka.jp/school/">https://www.itami-midorisaoka.jp/school/</a>		公式SNS (外部サイトへリンク)	<a href="https://www.instagram.com/ryokutai_itami/">https://www.instagram.com/ryokutai_itami/</a>				

↓ 次ページに続く ↓

表の見方についてはP8をご覧ください

### 【多様な地域クラブのリスト化】

出典:伊丹市教育委員会

### 【ホームページでの周知】

出典:伊丹市教育委員会

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

基本方針の  
策定

令和6年

子どもへの  
ニーズ調査  
保護者理解の  
醸成

ガイドラインの  
策定  
地域クラブの  
募集

令和7年

学校施設等の  
ルール整備  
中間団体の育成

令和8年

平日を含め  
地域クラブ活動  
へ本格移行

令和9年

全ての部活動が  
終了

●ステークホルダー

市教委・生徒・保護者

●経過

令和8年度に全ての部活動を移行する基本方針を策定し、子どものニーズ調査の上、全小・中学校で保護者説明会を開催した。

●実施にあたって生じた課題

学校部活動が今後、維持することが難しいことをわかりやすく、子どもや保護者へ伝えること。

●実施内容、工夫した点等

従来の学校部活動にとらわれない、スポーツ・文化芸術活動へのニーズの把握。わかりやすい資料や市ホームページの作成。

●ステークホルダー

市教委・地域クラブ

●経過

市のガイドラインを策定し、地域クラブを募集した。種目別検討会により地域クラブ創設の検討を進めた。地域クラブをリスト化し市ホームページで公表した。

●実施にあたって生じた課題

早期に多様な地域クラブを確保するため、地域クラブに「登録」と「届出」を設け、必要要件に強弱を設けたこと。

●実施内容、工夫した点等

公共施設の指定管理者等へ協力を求め、中学生対象の教室・講座事業を拡大した上で地域クラブとして市教委で広報した。

●ステークホルダー

市教委・学校・中間団体

●経過

確保した多様な地域クラブを管理するマネジメント団体を確保し、安全で子ども達のニーズ合わせたスポーツ・文化芸術活動の体制を整備する。

●実施にあたっての課題

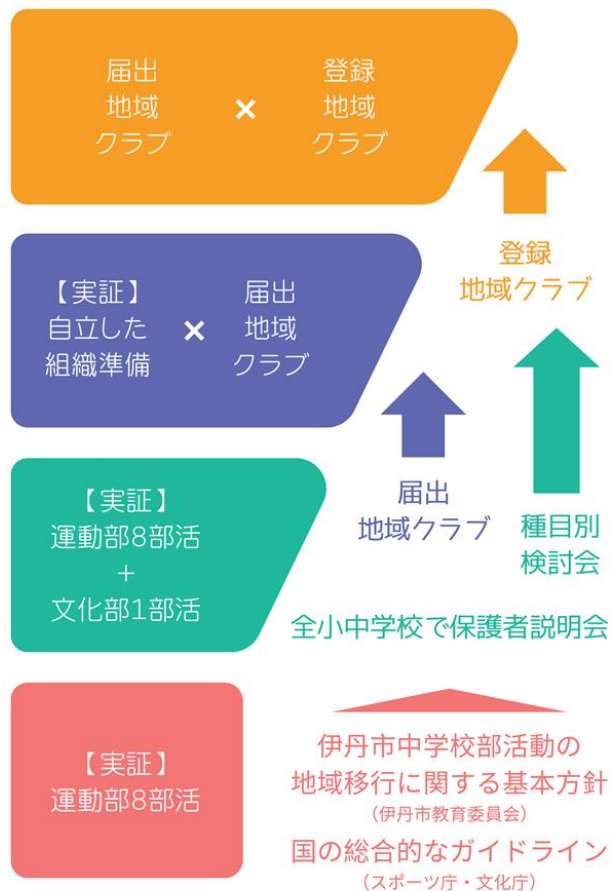
マネジメント団体の確保に向け、持続可能な学校施設利用に係るルール整備を進める。

●実施内容等

学校において部活動から地域クラブに円滑な移行が行われるよう、種目別検討会等で必要な検討を進める。

# 3. 今後の方向性

## 地域移行の推進に向けたロードマップ



- R8 平日・休日同時に地域クラブへ移行**
  - 運動部は夏頃、文化部は秋頃、3年生の引退後に地域クラブへ移行
  - 中学校施設を利用した「登録地域クラブ」の活動開始
- R7 参入条件の整備と自立した組織運営**
  - 検討会を踏まえ「登録地域クラブ」募集
  - 実証対象を組織化、運営を委託
  - 保護者・運営者双方の利便向上に資するICTツールの実証
- R6 保護者理解と地域資源のリスト化**
  - 全小・中学校において保護者より意見聴取、子どもたちのニーズ調査を実施
  - 中学校施設を使用しない既存の団体を「届出地域クラブ」としてリスト化し周知
- R5 実証事業の開始と基本方針の策定**
  - 「伊丹市中学校部活動の地域移行に関する協議会」において関係者より意見聴取
  - 実証事業のアンケートや学校現場の意見を踏まえ、基本方針を策定

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 加古川市

自治体名：兵庫県加古川市

担当課名：学校教育課 スポーツ・文化課

電話番号：079-427-9758 079-427-9180

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

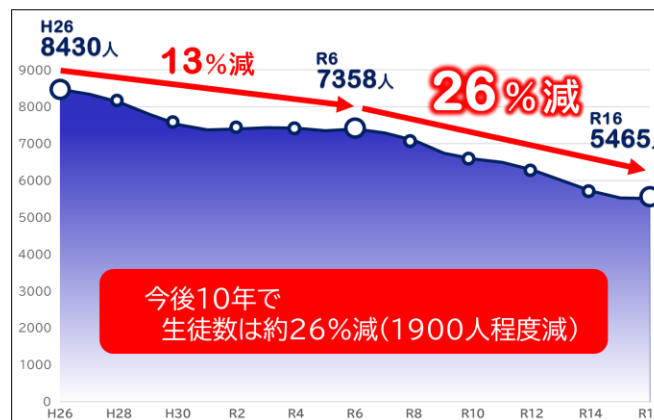
面積	138.5 km <sup>2</sup>
人口	254,835人
公立中学校数	12校 ※義務教育学校を含む
公立中学校生徒数	6,914人
部活動数	199部活 ※内、運動部144
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	令和6年度中に策定予定

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市には、陸上や吹奏楽等、全国大会出場校も存在し、部活動に熱心な教員も多いが、多大な超過勤務から顧問を拒む教員も増えており、二極化が進んでいる。部活動加入率は85%と高い数値を維持し、運動部も144部あるものの、特に市北部においては生徒数の減少が著しく、学校間における生徒の選択肢に差が生じている。

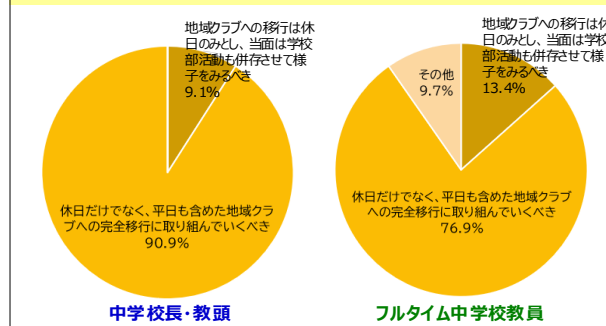
また、生徒数・教員数の減少に対し、部活動数はほぼ横ばいで、結果として学校単位での活動の維持が難しくなっている。顧問に目を向ければ、必ずしも専門的な指導力を有する者ばかりではなく、外部技術指導者に技術面のサポートを受ける等、状況は種目によって大きく異なる。

地域展開に向けては、「部活動のあり方検討委員会」での協議、試行プランやアンケート調査等に取り組み、課題を検証しながら、方針策定に向け検討を進めている。国や県の方針では、「まずは休日から」との方向ではあるが、教職員へのアンケートにおいても、平日を含めた検討を希望する声が多い。また、平日の部活動と休日の地域クラブ活動において指導者が異なることになれば、生徒の混乱を招いたり、指導者間の連携の難しさが生じたりする懸念がある。今後の地域展開においては、多様な子どもたちのニーズも踏まえ、魅力的で持続可能なスポーツ・文化芸術環境を、平日も含めてデザインしていく必要がある。



出典：R6加古川市住民基本台帳人口より算出

Q：加古川市では、部活動について平日を含めた持続可能な地域クラブ活動に転換していくことを検討しています。部活動の地域移行の取り組みとして、あなたの意見に最も近いのは次のどれですか。

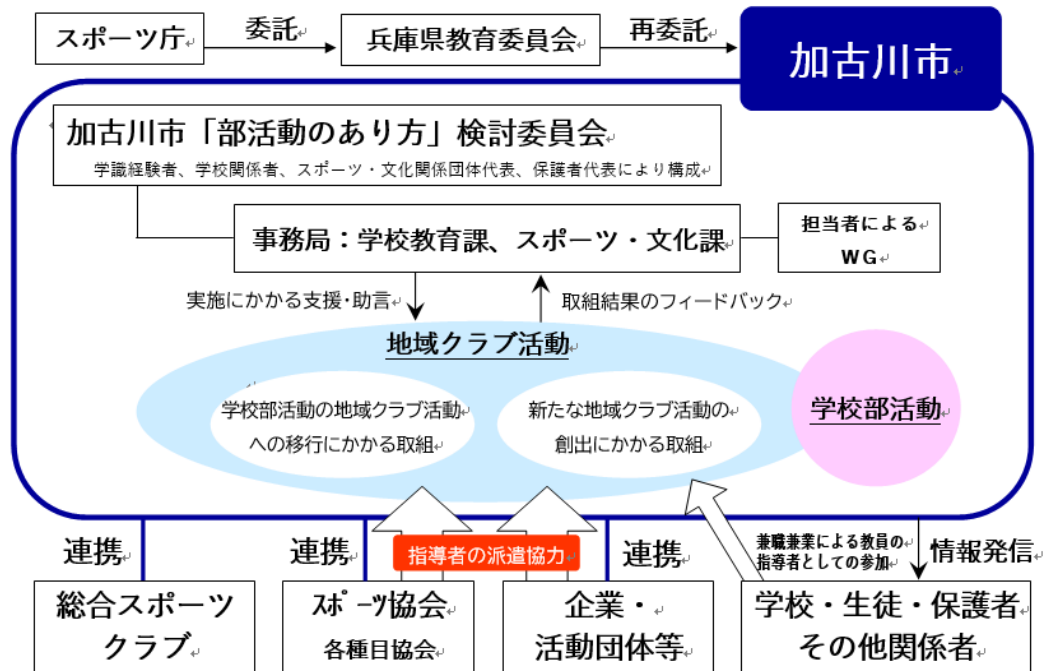


出典：学校部活動および新たな地域クラブ活動のあり方に関するアンケート結果

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校部活動の地域クラブ活動への移行にかかる取組
- ・推進計画の策定等、方針にかかる取組

##### ◎首長部局

- ・新たな地域クラブ活動の創出にかかる取組
- ・運営主体の整備にかかる取組

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	柔道・水上スポーツ 参加者募集
5月	部活動各種目へのヒアリングの実施
6月	野球 参加者募集
8月	「部活動のあり方」検討委員会① 鹿児島県・岡山県和気町視察受入
9月	サッカー 参加者募集 地域クラブでの指導にかかるアンケート調査（市職員、小学校教諭、スポーツ・文化団体） ヒアリング調査の実施
10月	ソフトボール 参加者募集
11月	県スポーツ協会研修会 事例発表
12月	「部活動のあり方」検討委員会② ハンドボール 参加者募集
令和7年1月	「部活動のあり方」検討委員会③
2月	各地域クラブの振り返り・統括市方針の策定 各関係者への説明の実施
3月	市方針の公表

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	12校 ※義務教育学校を含む	実施した地域クラブ総数	15クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		14クラブ（27部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	82人	全体の運営スタッフ数	9人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
加古川セントラル(野球)	自治体直轄	軟式野球	月1回	9:00～12:00	1年 34人 2年 15人 3年 0人	7～1月	中学校グラウンド	6人	9人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川イースト(野球)	自治体直轄	軟式野球	月1回	9:00～12:00	1年 16人 2年 16人 3年 0人	7～1月	中学校グラウンド	6人	9人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川ウエスト(野球)	自治体直轄	軟式野球	月1回	9:00～12:00	1年 13人 2年 20人 3年 0人	7～1月	中学校グラウンド	5人	9人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川ノース(野球)	自治体直轄	軟式野球	月1回	9:00～12:00	1年 14人 2年 28人 3年 0人	7～1月	中学校グラウンド	6人	9人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川サウス(野球)	自治体直轄	軟式野球	月1回	9:00～12:00	1年 20人 2年 18人 3年 0人	7～1月	中学校グラウンド	7人	9人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川イースト(サッカー)	自治体直轄	サッカー	月1回	8:30～11:0	1年 19人 2年 12人 3年 0人	10～3月	中学校グラウンド	6人	9人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場

## 2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
加古川ウエスト(サッカー)	自治体直轄	サッカー	月 1 回	8:30~11:0	1年 10人 2年 13人 3年 7人	10~3月	中学校グラウンド	6 人	9 人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川ノース(サッカー)	自治体直轄	サッカー	月 1 回	8:30~11:0	1年 27人 2年 16人 3年 0人	10~3月	中学校グラウンド	5 人	9 人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
加古川サウス(サッカー)	自治体直轄	サッカー	月 1 回	8:30~11:0	1年 28人 2年 19人 3年 3人	10~3月	中学校グラウンド	4 人	9 人 (内、兼務9人)	なし	中体連大会は部活動で出場
別府柔道クラブ	自治体直轄	柔道	月 1 回	9:00~11:00	1年 5人 2年 11人 3年 6人	5~3月	中学校グラウンド	5 人	9 人 (内、兼務8人)	なし	中体連大会は部活動で出場
ソフトボールクラブ(男子)	自治体直轄	ソフトボール	月 1 回	8:30~11:30	1年 3人 2年 2人 3年 2人	11~3月	中学校グラウンド	4 人	9 人 (内、兼務8人)	なし	中体連大会は部活動で出場
ソフトボールクラブ(女子)	自治体直轄	ソフトボール	月 1 回	8:30~11:30	1年 7人 2年 15人 3年 3人	11~3月	中学校グラウンド	3 人	9 人 (内、兼務8人)	なし	中体連大会は部活動で出場
ハンドボールクラブ(男子)	自治体直轄	ハンドボール	月 1 回	8:30~11:30	1年 27人 2年 20人 3年 4人	1~3月	神鋼加古川体育館	4 人	9 人 (内、兼務8人)	なし	中体連大会は部活動で出場
ハンドボールクラブ(女子)	自治体直轄	ハンドボール	月 1 回	8:30~11:30	1年 17人 2年 3人 3年 0人	1~3月	神鋼加古川体育館	4 人	9 人 (内、兼務8人)	なし	中体連大会は部活動で出場
水上スポーツクラブ	自治体直轄	水上スポーツ	週 1 回	9:00~12:00	1年 1人 2年 1人 3年 0人	7~3月	市漕艇センター	11人	9 人 (内、兼務8人)	月会費 2000円	なし

### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 関係者間連絡ツール導入にかかる保護者説明会

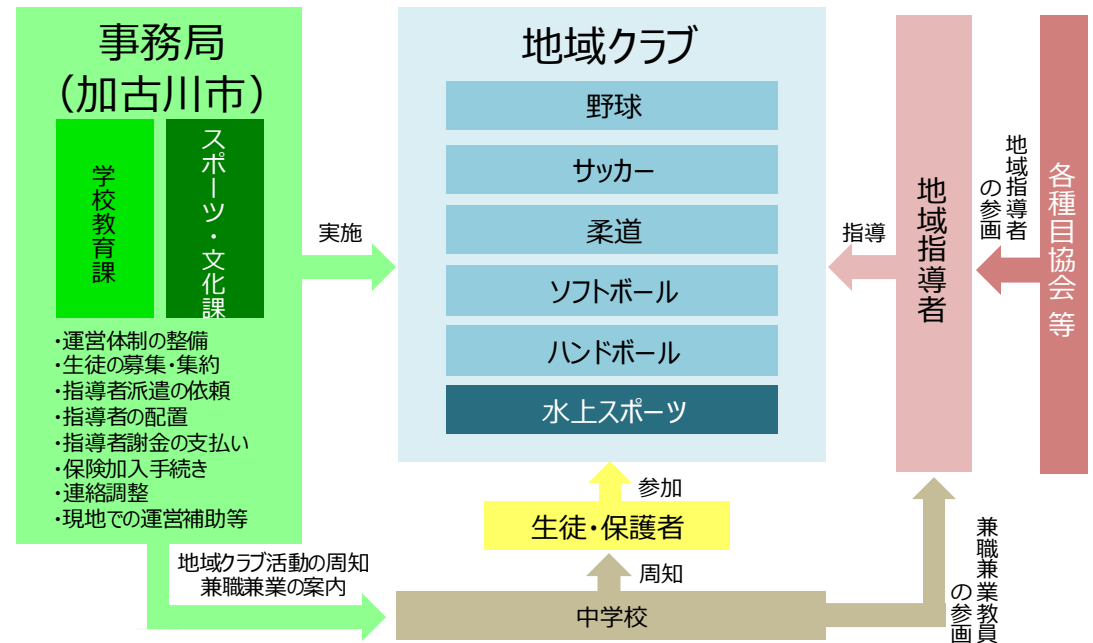
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●加古川地域クラブ（仮） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー、柔道、ソフトボール、ハンドボール、水上スポーツ
運営団体名	加古川市
期間と日数	野球：7・8・12・1月 月1回程度 サッカー：10月～ 月1回程度 柔道：5月～ 月1回程度 ソフトボール：11月～ 月1回程度 ハンドボール：1月～ 月1回程度 水上スポーツ：7月～ 週1回程度
指導者の主な属性	地域指導者（種目協会、兼職兼業教員、地域人材等）
活動場所	中学校 公共スポーツ施設 民間スポーツ施設
主な移動手段	徒歩・自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（月額）	水上スポーツ：2000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ●市運営スタッフ 計 9名

役割：地域クラブ活動における生徒募集や指導者配置等、事務局機能を担う。  
また、必要に応じて現地での運営補助及び管理を行う。

##### ●地域クラブ指導者 計 82名

役割：各クラブにおける参加生徒への技術指導等、現場での運営・管理を行う。

## 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 市長部局と教育委員会が連携し、担当者によるワーキンググループ等、地域展開に関する協議の場を設定し、取組を進める。
- 市長部局と教育委員会が事務局となり開催する「部活動のあり方検討委員会」等により、地域クラブ活動における運営主体の明確化等の検討を行う。
- 運営主体、各クラブの指導者、参加生徒等の連絡や参加者管理についてアプリ等のICTを活用することにより、効率的な情報共有のあり方について検討を行う。

##### 取組の成果

- 市長部局と教育委員会で連携し、関係部長や課長が参加する会議にて取組の進捗管理や方向性について共通理解を図るとともに、担当者によるワーキンググループにおいて具体的な取組について協議することで、運営主体や活動団体のあり方も含め、方針策定に向けた協議の場が一元化され、市全体の取組として進めることができた。
- 「部活動のあり方検討委員会」においては、地域クラブ活動の検証や本市の方針（案）、地域クラブ活動運営イメージ等について様々な立場からの意見も踏まえて議論を行ったことで、今年度中の方針策定に繋がる見通しである。

○地域クラブにおいて連絡ツールを活用したことにより、電話等で行っていた関係者間のやり取りを一元化することができたため、1クラブにかかる対応時間が昨年度と比較して50%程度削減できた。対応時間が減ったことにより、試行プランとして実施する地域スポーツクラブ数も昨年度の4クラブから15クラブへと拡充することができた。実際に使用した指導者や生徒、保護者からも「連絡調整がスムーズになった。」「個人情報を介さない連絡が可能なので、安心できた。」といった声があった。また、活動記録を写真や動画を添えて参加生徒や保護者に共有したことで、「家に帰ってから今日の練習の振り返りに役立った。」「普段は見えない活動の様子がよくわかった。」といった声があがった。

本日、2回目の試行プランを実施し、イーストブロックでは平岡南中学校において、平岡中・平岡南中の生徒25名が参加しました。今回は、熱中症対策のため、開始時間を午前7時30分として、次の練習メニューを行いました。①アップ ②キャッチボール ③ケースノック ④ケースバッティング



出典：関係者間連絡ツールによる活動記録

##### 今後の課題と対応方針

来年度は「部活動のあり方検討委員会」を「地域展開検討委員会（仮）」に変更し、運営団体の整備に向けた取組や地域クラブのガイドライン等、本市の方針に沿った取組について議論を進めていく予定。関係者間の連絡ツールについては、より効果的な活用方法について、次年度予算を確保し、引き続き検証を継続する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

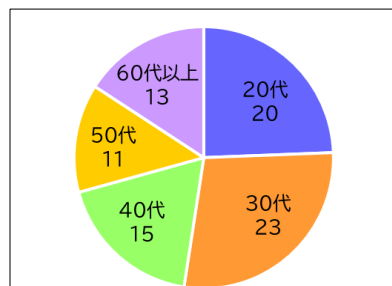
#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

- 地域指導者の確保、および地域クラブ活動への地域指導者の派遣について各種目協会等に協力を依頼し、連携した取組を進める。
- 試行プランに地域クラブの指導者として希望する教員が参画することを通して、教員の兼職兼業のあり方について検討する。
- 地域クラブの指導者間、学校部活動の顧問と地域クラブ指導者間で一貫した指導が行えるよう、アプリ等を活用した効率的な情報共有（スケジュール、出欠、指導内容等）のあり方について検討する。

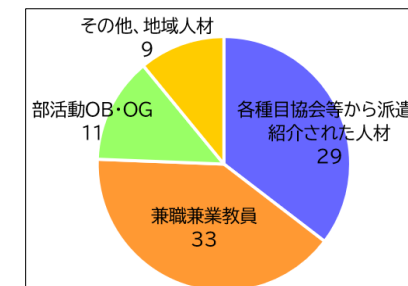
##### 指導者人数・年齢構成

・20代	20名
・30代	23名
・40代	15名
・50代	11名
・60代以上	13名
	計82名



##### 指導者属性

・各種目協会等から派遣・紹介された人材	29名
・兼職兼業教員	33名
・部活動OB・OG	11名
・その他、地域人材	9名



出典：担当課による調査

##### 取組の成果

○各種目協会等を通じて協力依頼することで、想定以上の指導者確保につながった。また、保護者へのヒアリングの結果、各種目協会にも協力してもらったことで、保護者の安心感にもつながった。

また、現在部活動に関わっておられる先生方へ丁寧に声かけやヒアリングを行った結果、顧問の1/3が地域クラブの指導者として試行プランに参加した。保護者へのヒアリングの結果、協会等からの派遣・紹介と同様に、保護者の安心感につながった。

○教員の兼職兼業について、今年度の試行の中で初めて認めて地域クラブ活動を実施した。兼職兼業の手続きを実際に教員に経験してもらう

ことで、お互いに今後のシミュレーションができた。

○アプリの活用により、顧問と地域指導者の情報共有がスムーズになり、練習の内容に生かすことができたとの声があがった。

##### 今後の課題と対応方針

次年度以降の地域クラブ活動の募集に当たっては、今回参画して下さった指導者の参画はもちろん、さらなる各種目協会等や教職員への働きかけにより、地域クラブの立ち上げが進むよう、指導者の量の確保に取り組む必要がある。また、教員の兼職兼業にあたっては、要件や手続きの流れを整理し、関係者への周知が必要となる。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項

○学校部活動にない新たな種目について、“加古川ならではの特色を生かした取組を進める。

##### 活動の詳細

○学校部活動にない新たな種目として市民協働部が中心となって市の名称にもなっている一級河川加古川を生かした水上スポーツクラブに取り組む。市漕艇センター周辺の比較的緩やかな流域にて、カヤックやカヌー、レガッタ等の活動を実施する。

##### 取組の成果

○学校部活動にない新たな種目に取り組むことで、これまでの学校部活動のイメージからの転換を図った。学校関係者や保護者からは、今後の地域クラブ活動においては、これまで選択肢になかったスポーツについても実施の可能性があるのだとわかり、肯定的に捉えることができたとの声があがった。

##### 今後の課題と対応方針

こどもたちのニーズに合わせた内容となるよう、次年度はアンケート調査の結果から人気のあった種目についても取組を広げる必要がある。また、実施日や実施時間等、部活動と並行して実施する場合においても生徒が参加しやすい条件について検討し、引き続きの検証が必要である。

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

○学校部活動にない新たな種目として試行する水上スポーツクラブにおいて、会費を設定・徴収してのニーズや適正な価格設定のあり方、受益者負担と公的資金との適切なバランスについて検討する。

##### 水上スポーツクラブにかかる経費

- ・指導者謝金(220千円) ・備品(ボート等)使用料(38千円)
- ・消耗品費(19千円) ・連絡アプリ使用料(17千円 ※R6は検証のため0円)

##### 取組の成果

今後の地域クラブ活動においては、受益者負担が原則となることについて、生徒の募集時も含め、周知を図ることができた。

また、持続可能な会費設定に向けてクラブの規模感や適正な生徒・指導者数について試算した。今回のように参加者が少数であった場合、指導者謝金も含めて受益者負担に跳ね返ることとなり、持続可能な負担額とならない。仮に、R6実施分の指導者謝金の内、50%を受益者負担に上乗せすると、月会費は10000円程度となる。参加者が10名まで増えれば一人当たりの月会費は3600円程度、安全確保のため指導者1名増と仮定しても4000円程度となる。自走型を想定し、受益者負担のみでの運営を考える場合は、最低でも20名程度の参加者を確保すれば3600～4000円程度の会費が実現できると考えられる。

##### 今後の課題と対応方針

引き続き、会費を伴う試行についても実施し、継続的な検証を行う。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

実証事業の計画段階においては、十分な事前調整が図れていないプランや、年度当初の対象となる部活動の指導体制や生徒数によって左右されるプラン等、想定しうる内容を含めて計画する必要があったため、当初想定していた形とは異なる内容になった種目もあったものの、関係者への丁寧な説明と調整により、想定していた種目については何らかの形で具体的な検証に繋がれたことは大きな成果であった。

実際に地域クラブとして活動を行いながら、実施方法や持続可能な指導体制、効果的な連絡方法や参加生徒・指導者の適正規模等について検証できたことにより、試行に取り組んだ種目においては休日の活動イメージを具体的にもつことができた。指導者にとっても参加した生徒にとってもそれは同様で、移動しての参加・指導、他校生との活動等、今後の地域展開後の形について知る機会となった。

#### ●成果の評価

計画段階で掲げた達成目標は以下の①～④の4つである。

- ①関係団体等との円滑な連携による試行プランに参加する地域指導者数の増加
- ②効率的な情報共有のあり方を目指したアプリ等ICTツールの積極的活用
- ③関係者の部活動地域展開にかかる理解促進
- ④推進計画等、市としての方針の策定

①については、昨年度の26名から82名へ約3.1倍に増加し、想定以上に地域指導者を確保することができた。②については、全ての地域クラブにおいて関係者間連絡ツールを活用し、関係者からの反応も良好だった。③については、関係者ヒアリングや試行プランの募集やアンケート調査等を通じて周知を図ったものの、十分な理解促進が図れたとはまだまだ言えない。④については、2月中の策定、3月中の公表をめざして、調整の最終段階にあり、達成できる見通しである。

以上のことから、今年度の実証事業の成果に対しては、十分な成果が挙げられたものとする。今後は市方針の広報を進め、より一層の地域展開にかかる関係者の理解促進を図る。

#### ●今後に向けて

次年度については、平日も含めた試行に取り組むことで、授業時間後の会場移動や夕方～夜型の活動時の課題の検証、照明設備等、夜型の活動を支える環境整備の検証を進めるとともに、これまで試行に取り組めていない種目においても、積極的に地域クラブ活動による検証を行い、具体的な活動イメージの醸成に努めたい。また、市方針を公表し関係者へ丁寧な説明が求められる1年となることから、広報用資料の作成や各関係者への説明会の実施、地域クラブの募集に向けたガイドラインの策定等、地域展開の実現に向けた、より具体的な取組を進めたい。

# 2.実証内容と成果②

## アンケート結果・広報資料

### 【生徒への試行プランへの参加募集チラシ】

市内全生徒を対象に周知し、参加者の募集を行った

市内中・義務教育学校(後期課程)の生徒・保護者のみなさんへ

**部活動の地域移行に係る 試行プラン(サッカー)への参加について(案内)**

加古川市教育委員会では、子どもたちが生涯にわたって豊かなスポーツ・文化芸術活動ができるよう、新たな地域クラブ活動に向けた取組を進め、指導方法や環境整備等を検討しております。その一環として、今年度もチームスポーツにおける実証実験・試行プランを実施します。

この度、サッカーを対象に地域クラブ活動として、地域指導者(加古川市サッカー協会、兼職兼業教員等)が指導する「試行プラン(サッカー)」を以下のとおり行います。新たな地域クラブ活動を構築していくために、みなさまのご協力をお願いいたします。

**実施概要**

- 主催** 加古川市教育委員会
- 対象** 市内中・義務教育学校(後期課程)の生徒の内、希望者  
※現在、別種目の部に所属している生徒は、顧問の先生に相談してください。
- 活動日** 10月6日(日)、11月10日(日)、12月14日(土)、1月12日(日)、2月9日(日)、3月2日(日)  
時間は原則8時30分～11時30分 ※雨天の場合は中止
- 会場** 市内中学校4会場(運動場)  

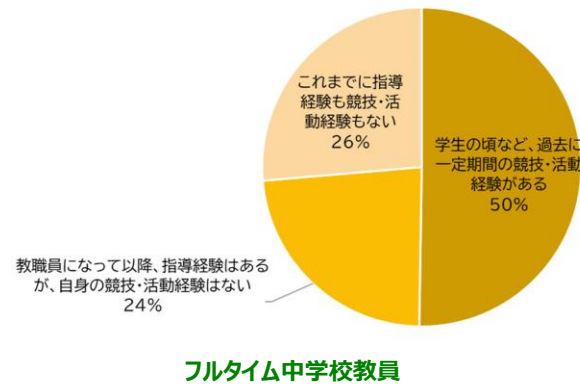
イーストブロック(市東部) … 中部中・平岡中・平岡南中	※会場については、天候や大会、他の試行プランとの兼ね合い等を考慮し改めて調整しますが、ブロック内のいずれかの中学校になる予定です。詳細については、申込後に別途案内します。 ※会場までの送迎は、保護者の責任をお願いします。(保護者等による送迎、自転車の利用可)
ウェストブロック(市西部) … 神吉中・志方中・高田中	
サウスブロック(市南部) … 別府中・浜の宮中・加古川中	
ノースブロック(市北部) … 陵南中・氷丘中・山手中	
- 指導者** 地域指導者(兼職兼業教員、加古川市サッカー協会等)
- 参加費** 無料  
※試行プラン実施にあたり、別途、保険に加入しますが個人負担はありません。活動中の怪我と経路往復中の事故は保険が適用されます。ただし、車による送迎中の事故については保険対象外となります。
- 申込期限** 令和6年9月13日(金)
- 申込方法** 二次元コードより Google フォームにてお申し込みください。  
※裏面(Q&A)もご確認ください。  
※参加に関しては、保護者の同意を得た上で申し込みください。  
※取得した個人情報、活動の計画、保険の申し込みならびに活動中の緊急連絡において利用するものであり、情報漏洩に十分注意し、これらの目的以外で利用することはありません。また、年度末において、廃棄します。  
※申し込み状況は学校教育課から各中学校・義務教育学校へ共有いたしますことをご了承願います。

参加申込用 二次元コード

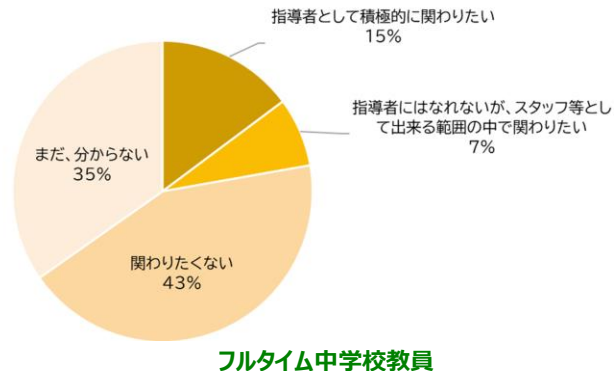
出典：サッカークラブ募集チラシ

### 【アンケート結果】

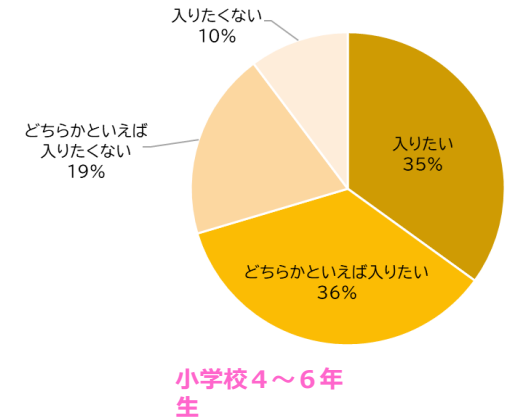
Q：現在担当している部活動について、あなた自身その種目の競技・活動経験、指導経験はありますか。



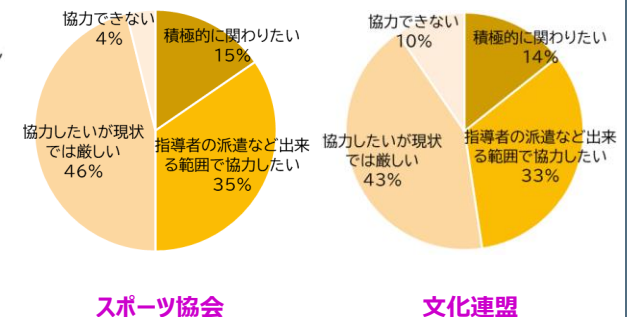
Q：地域移行後の新たな地域クラブとの関わりについて、ご意見に最も近いのは次のどれですか。



Q：部活動に代わって自分がやりたいスポーツ・文化芸術活動ができる地域クラブがあれば入りたいと思いますか。



Q：地域移行後の新たな地域クラブとの関わりについて、貴団体の姿勢として最も近いのは次のどれですか。



出典：学校部活動および新たな地域クラブ活動のあり方に関するアンケート結果

## 2.実証内容と成果③

### 参考資料（活動写真）



サッカークラブでのミーティングの様子



水上スポーツクラブでの練習の様子



ソフトボールクラブでのケースノック練習の様子



野球クラブでの打撃練習の様子



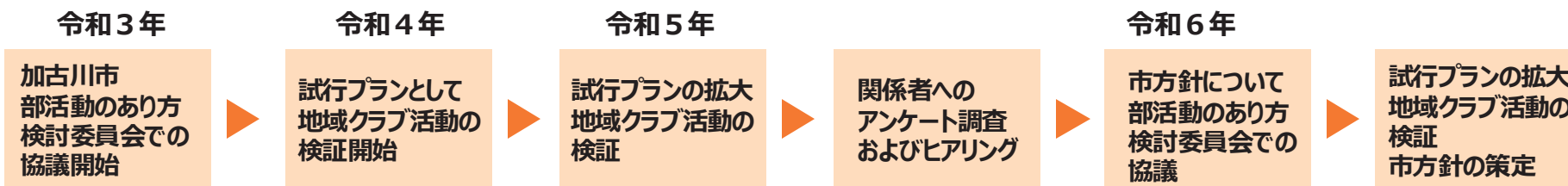
ハンドボールクラブでのシュート練習の様子



柔道クラブでの乱取り練習の様子

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ステークホルダー

学校、スポーツ協会、スポーツ推進委員会、総合スポーツクラブ、文化連盟、競技団体、保護者、市長部局、市教委

#### 経過

令和3年度より検討委員会での協議を開始し、令和4年度には試行プランとして地域クラブ活動の検証を開始した。また、検討委員会事務局に市長部局を加え、関係者による協議を進めた。令和5年度には試行プランの拡大および関係者へのアンケート調査等を実施した。今年度は試行プランの全市的な取組へのさらなる拡大と、検討委員会での市方針策定に向けた協議を進めた。関係者の意見を踏まえ、現在市方針の策定と公表に向け、準備を進めている。

#### スポーツに関する実施内容

- R 4 陸上（地域限定）
- R 5 陸上、柔道、野球（地域限定）
- R 6 柔道、野球、サッカー、ソフトボール、ハンドボール、水上スポーツ（全市的な取組として実施）

#### 実施にあたって生じた課題

休日を中心に地域クラブの検証を行ってきたが、検証の中でも平日の部活動と休日の地域クラブ活動において指導者が異なることに懸念の声があげられた。アンケート結果でも、学校関係者の多くが平日も含めた取組の必要性を感じている。今後、平日も含めた取組を進めていくためには、夜型の活動を支える照明等の環境整備やオンライン予約システムやスマートロック導入等が必要となるが、国や県による支援策が不足しており、関係部局との協議も難航することが予想される。

さらに、種目によっては指導者の不足が課題として指摘されている。次年度以降は教職員や各種目協会に加え、企業や既存活動団体等、様々な関係団体へアプローチし、地域クラブ立ち上げに向けた地域指導者の掘り起こしが必要である。

#### 取組の成果

市長部局と教育委員会が連携し、役割分担しながら取り組んだことにより、市全体で取り組むべき問題であるとの認識のもと、庁内の関係部局との合意形成が図れた。「部活動のあり方検討委員会」において関係者と協議をしながら、いただいた意見を方針に反映し、方針策定に繋げることができた。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

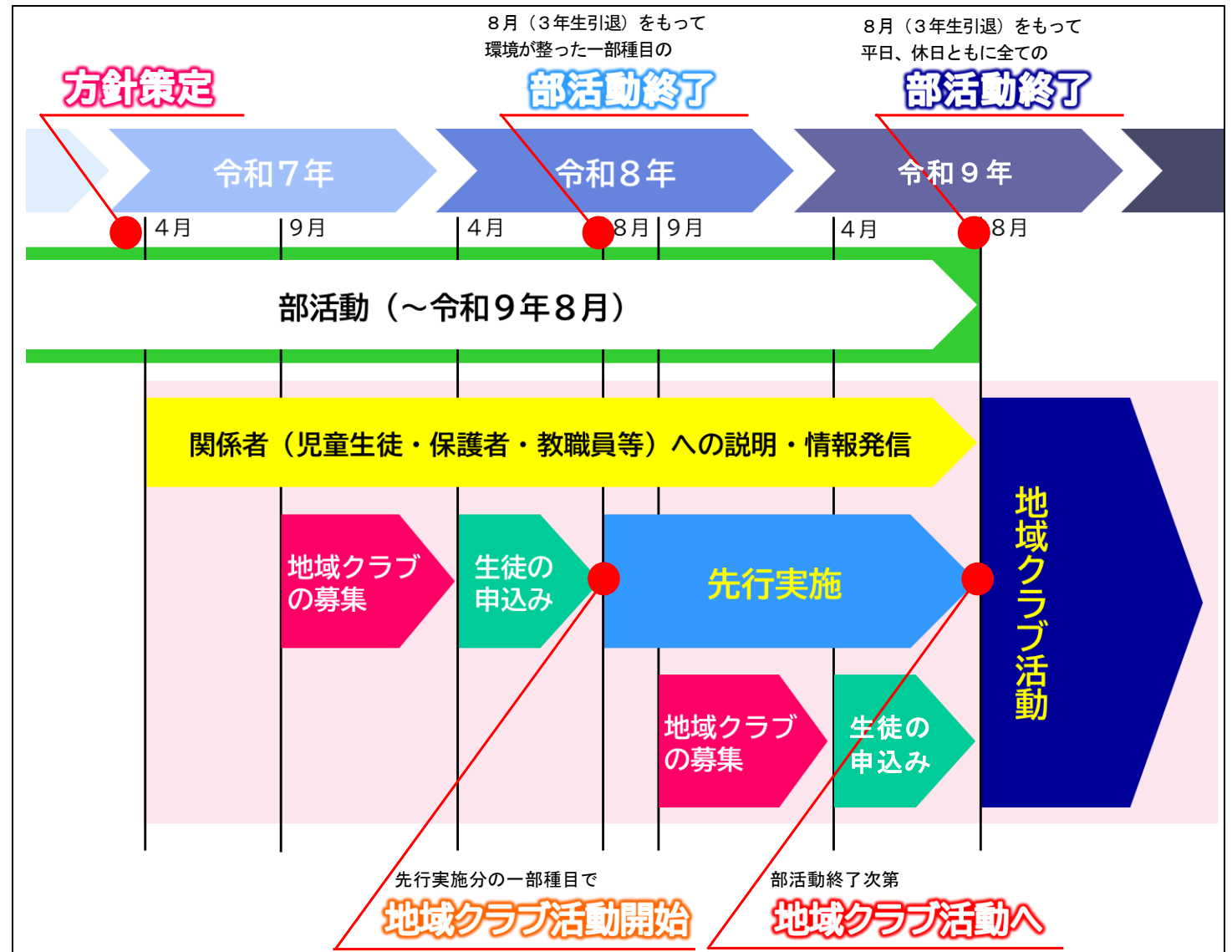
### 加古川市における部活動地域展開に関する考え方 ※3月公表

これまで中学校の部活動（以下、「部活動」という。）が果たしてきた役割を十分に理解したうえで、現在、部活動を取り巻く環境へ対応することで、将来にわたって子どもたちが主体的に選択し、多様な活動に参加できる機会を確保することをめざすとともに、教職員の働き方改革を図る。

令和9年8月に平日、休日ともに全ての部活動を終了して、子どもたちと地域の方がともに活動する(仮)加古川地域クラブ活動を新たに開始する。

なお、環境が整った地域クラブ活動については、令和8年8月から先行実施する。

※ロードマップは右図のとおり



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県赤穂市

自治体名：兵庫県赤穂市

担当課名：学校教育課

電話番号：0791-43-6860

## 基本情報

面積	126.85 km <sup>2</sup>
人口	43,218 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,082 人
部活動数	44 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済み

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

赤穂市は既に少子化の影響で、団体競技ができない、通学先にやりたい種目がない等の状況に陥っている。また、部活動指導を負担に感じている教員も多く、業務適正化の観点からも地域移行（展開）を推進している。

今後中学校の生徒数が減ることは明らかであり、年度別出生数から令和19年ごろには生徒数が現在（約1,100人）の約半分（600人）となってしまう、今以上に学校部活動が成り立たなくなってしまうことが予見される。

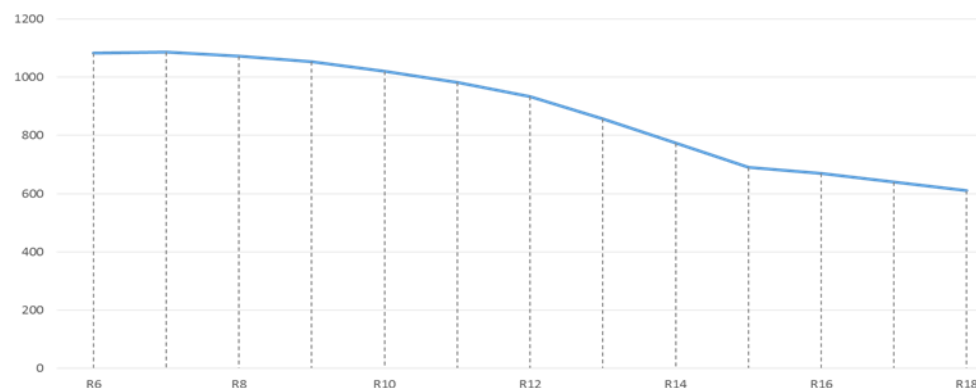
したがって、赤穂市では令和8年度内に「土日・休日の完全移行」をめざし、子供たちが継続

的にスポーツ活動や文化活動に親しむ機会の確保をめざす。

部活動地域移行（展開）を進めるにあたって、地域に現状と課題を十分に周知し、理解と協力を得られるよう取り組んでいく。

また、地域の受入団体を確保することが喫緊の課題であり、各協会や希望する教員への説明会等を開催し、受入団体・指導者の確保を進める。

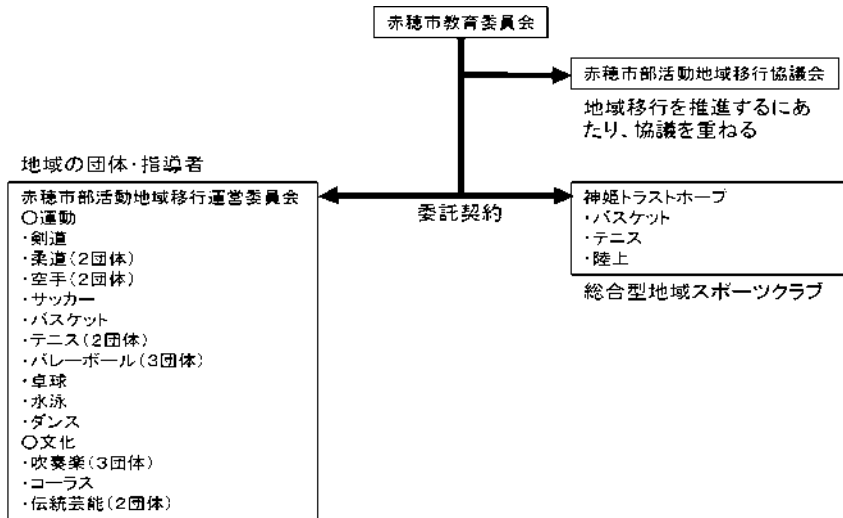
### 赤穂市中学校生徒数推移



## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校教育課・・・部活動地域移行（展開）の主幹、学校に関する事項について
- ・スポーツ推進課・・・スポーツ団体との連絡調整、スポーツ施設の管理等
- ・生涯学習課・・・文化団体との連絡調整、公民館の管理等
- ・総務課・・・中体連への加盟費・学校施設の管理等

##### ◎首長部局

- ・財政課・・・予算措置

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	各団体において活動開始
令和6年5月	第1回協議会の開催
令和6年8月	第2回協議会の開催
令和6年8月	第1回運営委員会の開催
令和6年9月	第2回運営委員会の開催 及び指導者向け研修
令和6年12月	第3回協議会の開催
令和7年1月	第3回運営委員会の開催
令和7年	児童生徒・保護者アンケート実施

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	5校	実施した地域クラブ総数	11クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		8クラブ（7部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		3クラブ
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	1人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
赤穂剣道連盟 中学部	地域団体	剣道	月 11 回	18:30 ～ 20:00	中1：3 中2：5 中3：1	9月～1 月	尾崎小学校 坂越中学校	2人	0人	0円	中体連：部活動
赤穂 YAWARAク ラブ	地域団体	柔道	月 6 回	18:00 ～ 20:00	中1：1 中2：0 中3：3	9月～1 2月	塩屋青少年 武道館	2人	0人	0円	中体連：部活動
拳義館	地域団体	空手	月 14 回	18:30 ～ 19:30	中1：1 中2：3 中3：2	9月～1 2月	坂越地区 体育館	1人	0人	0円	その他：地域 クラブ
COULEUR	地域団体	バスケット	月 15 回	19:00 ～ 21:30	中1：6 中2：1 中3：0	9月～1 月	赤穂東中 学校 坂越中 学校	1人	0人	0円	中体連：部活動

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
赤穂市中学生ソフトテニス教室	地域団体	ソフトテニス	月 4 回	9:00～ 12:00	中1：15 中2：9 中3：8	9月～ 12月	城南緑地公園テニスコート	2 人	0 人	年 2,000 円	不参加
パインテニスクラブ	地域団体	ソフトテニス 硬式テニス	月 7 回	9:00～ 10:30	中1：2 中2：1 中3：0	9月～1 月	パインテニススクラブ	2 人	0 人	1回500 円	不参加
赤穂バレーボールクラブ	地域団体	バレーボール	月 9 回	18:00 ～ 20:00	中1：5 中2：4 中3：4	10月～ 12月	赤穂小学校	3 人	0 人	0 円	中体連：部活動
赤蔵VC	地域団体	バレーボール	月 8 回	19:00 ～ 21:00	中1：7 中2：0 中3：0	9月～1 月	坂越中学校	2 人	0 人	0 円	不参加
赤穂U-15バスケットボールクラブ	地域総合クラブ	バスケット	月 16 回	19:30 ～ 21:00	中1：8 中2：6 中3：5	9月～1 月	赤穂市総合体育館	3 人	1 人	0 円	不参加
赤穂城南テニスクラブ	地域総合クラブ	硬式テニス	月 1 回	16:00 ～ 18:00	中1：2 中2：0 中3：0	9月～1 月	城南緑地公園テニスコート	1 人	(1人)	0 円	不参加
ランニング教室	地域総合クラブ	陸上競技	月 1 回	9:30～ 11:00	中1：0 中2：1 中3：1	9月～1 月	赤穂城南緑地公園陸上競技場	4 人	(1人)	0 円	不参加

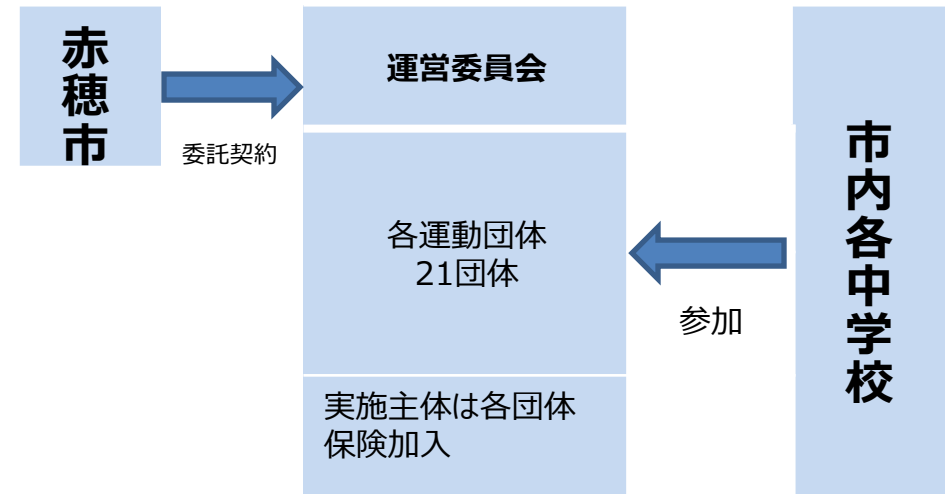
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●赤穂市部活動地域移行運営委員会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道、柔道、空手、バスケット、ソフトテニス、バレー
運営団体名	赤穂市部活動地域移行運営委員会
期間と日数	剣道：9月～1月 月11回程度 柔道：9月～12月 月6回程度 空手：9月～12月 月14回程度 バスケット：9月～1月 月15回程度 ソフトテニス：9月～12月 月4回程度 ソフトテニス：9月～1月 月7回程度 バレー：10月～12月 月9回程度 バレー：9月～1月 月8回程度
指導者の主な属性	教員、地域指導者
活動場所	学校・城南緑地公園
主な移動手段	自転車・保護者の送迎（車）
1人あたりの参加会費等（年額）	未設定
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ●委員長

役割：地域移行（展開）に係る各受入団体との連携を行う

##### ●指導者 15名

役割：各団体にて生徒への指導を行う

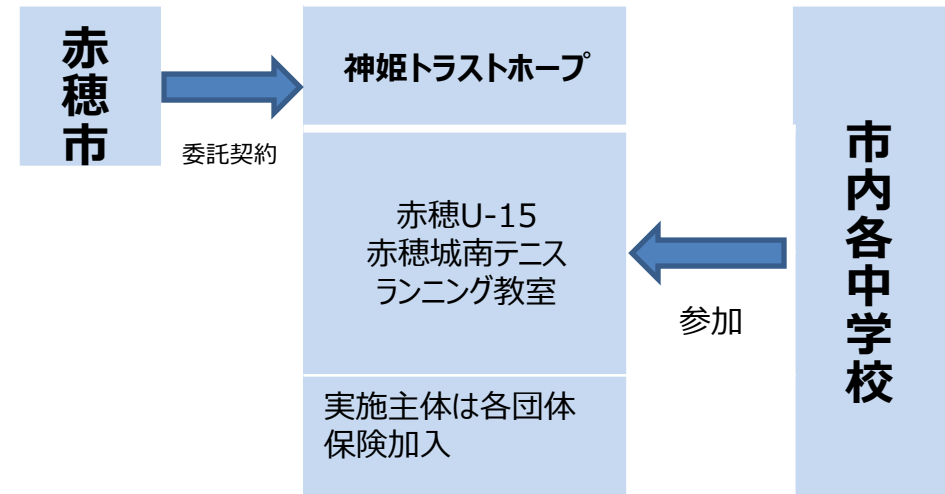
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ● 神姫トラストホープ株式会社 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケット、硬式テニス、陸上教室
運営団体名	神姫トラストホープ株式会社
期間と日数	バスケット：9月～1月 月16回程度 硬式テニス：9月～1月 月1回程度 陸上：9月～1月 月1回程度
指導者の主な属性	各協会指導員
活動場所	城南緑地公園
主な移動手段	自転車・保護者の送迎（車）
1人あたりの参加会費等（年額）	未設定
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ● 施設庁

役割：地域移行（展開）に係る各受入団体の運営管理を行う

##### ● 指導者 8名

役割：各団体にて生徒への指導を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

##### 取組の成果

○教育委員会が中心となり、市長部局や関係機関・各受入団体との連絡調整等を行った。

##### ・役割

協議会：地域移行（展開）の方向性や目標等の協議。受入団体の登録可否。

運営委員会：地域移行（展開）の受入団体が円滑に活動を行えるよう助言。また、活動における危機管理や熱中症対策、ハラスメント行為の禁止等の研修を行う。

各受入団体：実施主体として、活動。

○学校教育課が協議会・運営委員会の事務局として対応しているが、専門の部署や人材を設置しているわけではないので、連絡調整や会計処理・活動内容の集約等が煩雑であり、円滑に地域移行を進めるには専門部署や人員の配置が必要であると考えます。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

今年度、コーディネーターは活用していない。

##### 今後の課題と対応方針

事務局及び運営組織の体制整備を早急に整えることが課題である。そのためには、コーディネーター等の部活動地域移行（展開）の事業を主に対応できる人材の確保が必要である。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

部活動地域移行を進めるにあたって、地域への周知が一番重要であった。地域移行については各市町によって方法が違い、赤穂市の指針やスケジュール等が伝わりにくい状況であった。教育委員会のホームページを随時更新したり、適宜広報誌等を利用したりして周知の徹底を図った。

平日を含めた地域移行となったことも、資料等を整理し保護者だけでなく地域に向けても発信し、大きな混乱を招くことなく理解を得られた。

受入団体については募集を開始してから1年半ほどで30もの団体が登録し、活動を始めている団体もある。運動部は受益者負担の金額が低い傾向にあるので持続可能な運営のためにも適切な受益者負担のあり方を確立していく必要がある。また、子どもたちのニーズに合った活動の確保に努めたい。

#### ●成果の評価

人口が44,000人ほどの赤穂市でこれだけ多くの受入団体を早期に確保できたことは、事務局の予想をはるかに上回る内容であり、各団体の尽力によって休日だけでなく平日を含めた地域移行にも踏み込むことができた。

地域へ繰り返し周知を行ってきたことで、地域・保護者への理解を得られることができ苦情等はなく進めることができた。

#### ●今後に向けて

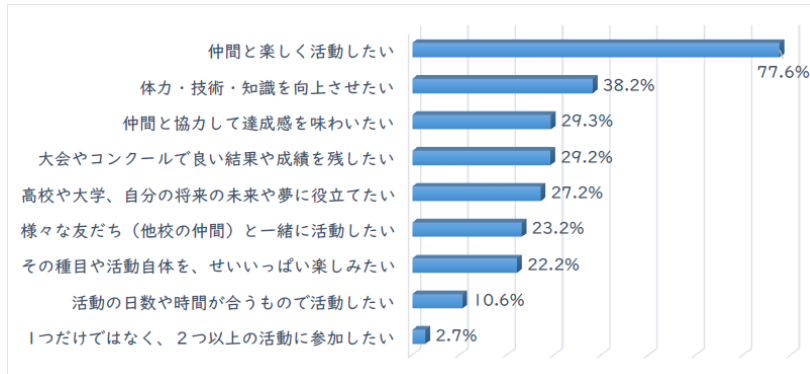
多様な運動部活動の機会を確保するためにも、関係部局と連携し更なる受入団体の確保が必要である。また、赤穂市の地域移行は実施主体が各団体にあるが、賠償責任が発生した時に各団体が責任を負う形になってしまうので、体制整備の強化が急務である。

地域移行を進めるにあたり困窮世帯への補助が課題として必ず取り上げられるが、市独自の判断は難しく、国や県の動向を注視し対応をしていくことが必要である。

## アンケート結果・参加者の声

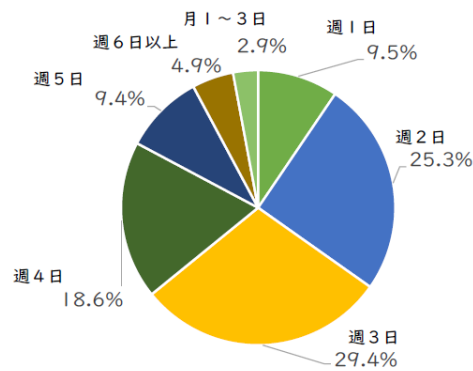
### ●アンケート結果

Q.中学校の部活動や地域クラブでどのようなことを望みますか（最大3つまで）



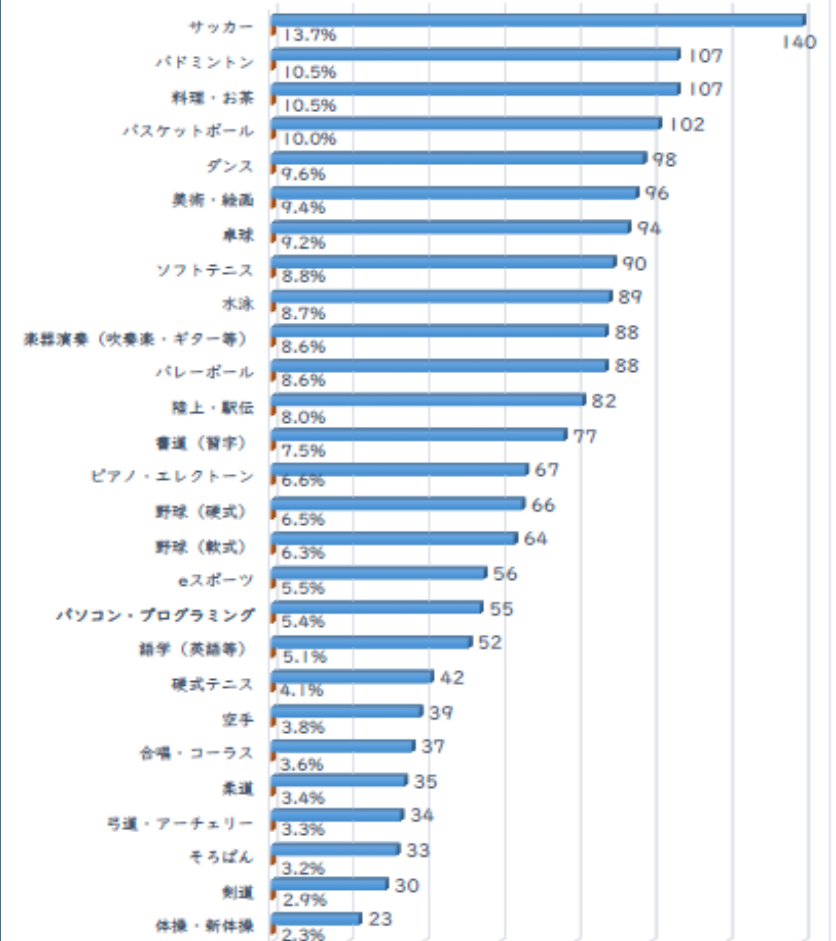
Q.中学生になって、取り組みたい種目・活動の日数はどれくらいがよいですか。

週1日	9.5%
週2日	25.3%
週3日	29.4%
週4日	18.6%
週5日	9.4%
週6日以上	4.9%
月1～3日	2.9%



### ●参加者の声

Q.中学校になって取り組みたいと思う種目・活動を選択してください。（最大3つまで）

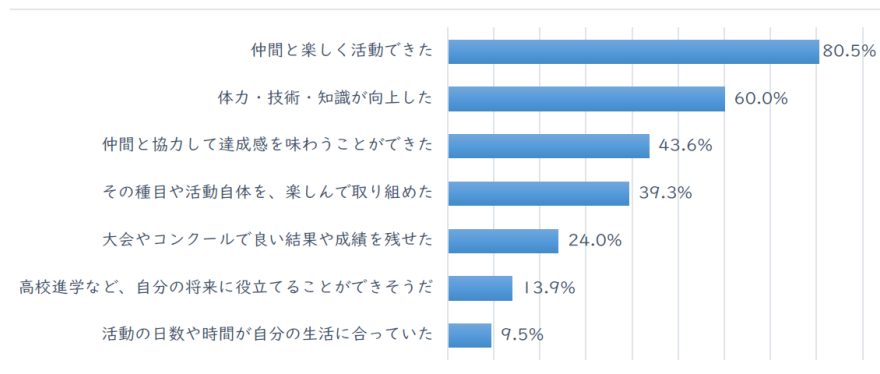


## 2.実証内容と成果③

### アンケート結果・参加者の声

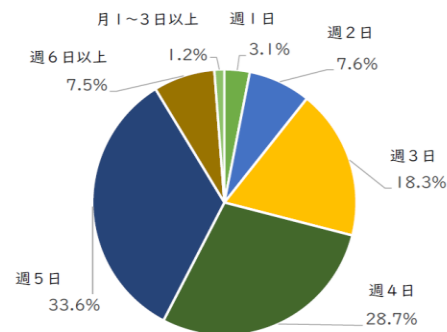
#### ●アンケート結果

Q.中学校の部活動やクラブチームで「やってよかった」と思うことを教えてください。  
(最大3つまで)



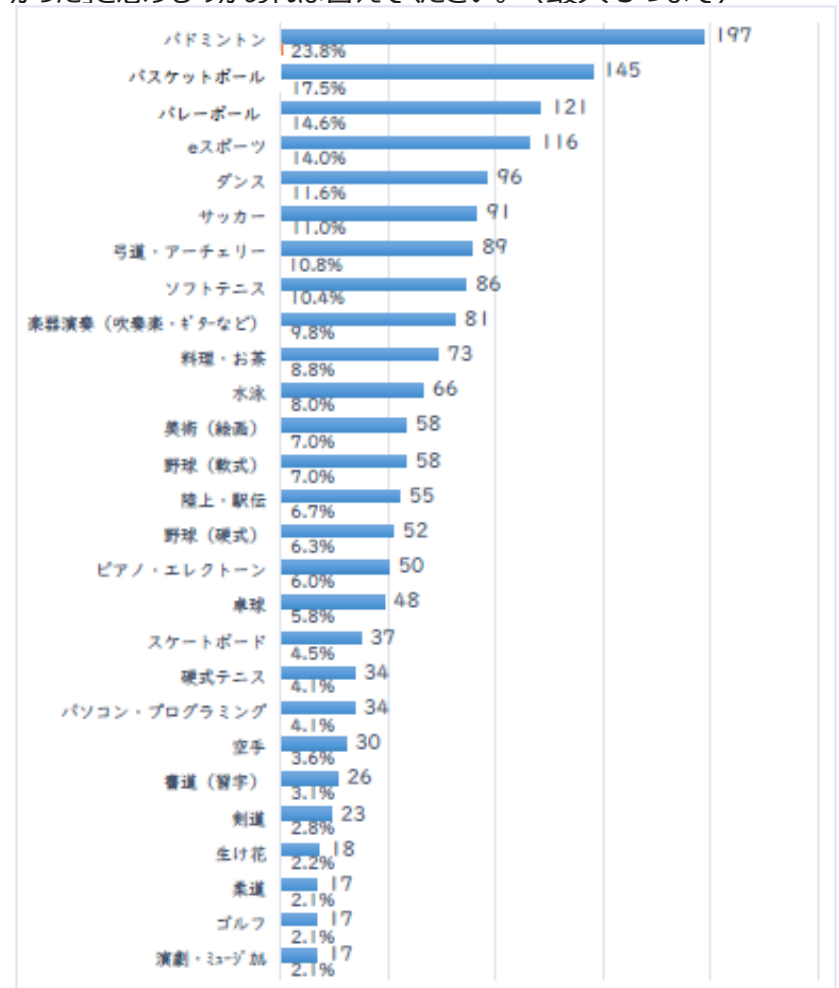
Q.種目・活動日数が、自分にとって「ちょうどよい」と思うのは何日ですか。

週1日	3.1%
週2日	7.6%
週3日	18.3%
週4日	28.7%
週5日	33.6%
週6日以上	7.5%
月1~3日	1.2%



#### ●参加者の声

Q.中学校の部活動や地域のクラブに「こんな競技・活動をやってみたかった」と思うものがあれば教えてください。(最大3つまで)



## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ●ステークホルダー

市教育委員会（総務課・スポーツ推進課・生涯学習課・学校教育課） 市長部局（財政課・公園管理） 学校  
市体育協会 市文化協会 スポーツ少年団 市スポーツ推進委員 高校 大学 受入団体

#### ●経過

令和5年の1月より、地域移行へ向けて検討が行われ、「令和8年度に土日休日の完全移行」を目標に取り組みを進めてきた。地域の協力もあり多くの受入団体を確保することができ、それぞれの団体の指導方針の元活動を開始している。保護者や指導者、学校からの意見として平日も含めた地域移行を早期に進めてほしいという意見から「令和8年度の中学3年生が引退する時期をもって学校部活動は廃止し、地域の活動へと完全移行（展開）する」こととなった。

#### ●実施にあたって生じた課題

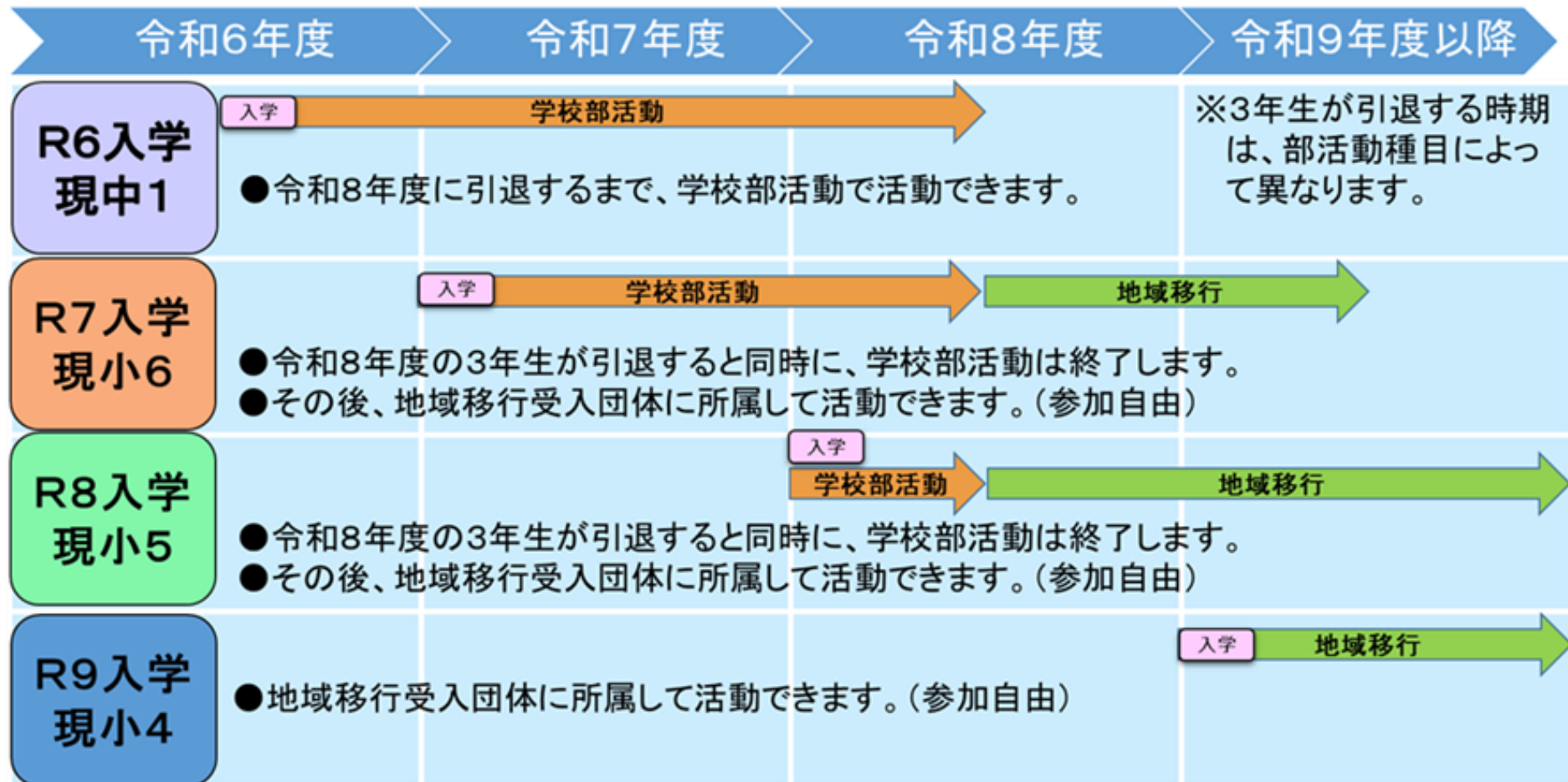
学校部活動と地域の活動が混在していることで、地域の活動が開始されても生徒が誰も来ない団体もあり、活動を継続することが難しい団体もあった。既に社会体育等で施設が利用されており、今以上に活動を増やすには調整の必要性を感じている。

#### ●今後の展開

子ども達の多様なニーズに応じ、受入団体の更なる確保に向けて募集を継続していく。また、土日・休日の地域移行から平日を含めた地域移行へと転換したため、現段階では平日の活動を始めることが難しい団体もある。施設・受益者負担・活動の時間帯によっては騒音問題等解決しなければならない課題は山積しているが、課題解決・軽減を図っていき、子供たちの活動の機会を確保したい。また、市内には大学があるため、大学とも連携し子ども達への指導に協力を依頼している。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



※各中学校において、教職員数や生徒数の関係で募集停止・廃部となる可能性もあります。  
 ※地域移行受入団体の活動に参加するかは、各家庭でご相談の上、判断してください。

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 宝塚市

自治体名：兵庫県宝塚市

担当課名：宝塚市教育委員会 学校教育課

電話番号：0797-77-2028

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

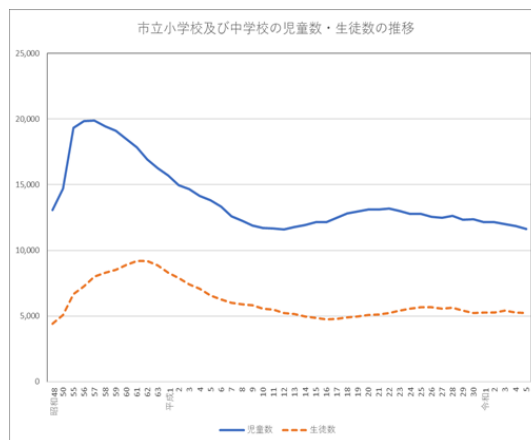
面積	101.89km <sup>2</sup>
人口	220,709人
公立中学校数	12校
公立中学校生徒数	5,218人
部活動数	137部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においても少子化が進んでいる中で、生徒が将来にわたりスポーツや文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保することが求められています。ここ数年の間に一部の部活動が廃部や廃部予定となっており、生徒のスポーツや文化芸術等に関する活動の選択肢がさらに減少しています。

このような状況の中で、本市では中学生がスポーツや文化芸術に親しむ機会を着実に確保していくため、学校の部活動の教育的意義や役割を継承・発展させつつ、必要に応じて段階的に地域への移行を基本とします。令和4年度お

び令和5年度にそれぞれ廃部となったサッカー部は、地域移行により活動を継続しています。令和8年度の中体連等の大会や各種コンクール、発表会等の終了（3年生の引退後）を受け、部活動は一斉に完全廃止し、新体制として地域移行に基づく地域クラブ活動を開始します。そのため、令和7年度（2025年度）には、地域移行後も指導を希望する教員を中心に、種目によっては拠点校方式を含めて活動を集約し、教職員による地域移行準備段階の活動に取り組みます。なお、地域移行が可能な部活動は順次移行する予定です。



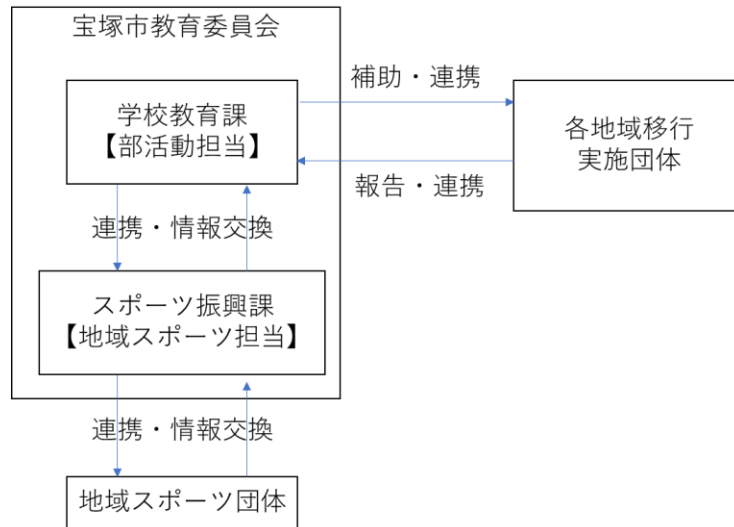
【参考】令和6年度（2024年度）市立中学校の部活動の加入状況<sup>④</sup>

学校名	野球	サッカー	ソフトボール	男子テニス	女子テニス	男子バスケット	女子バスケット	男子バレー	女子バレー	男子卓球	女子卓球	柔道	剣道	吹奏楽部	美術部	放送部	芸術連	手作り	理科	コーラス	琴	P.C	合計	加入率	生徒総数	
宝塚第一中	20		4	30	36	21	25	25	25	2	55			35	31		25	19					353	77.1%	458	
宝塚中	10	34	10	35	34	23	19	29	45	34		25	12	31	29				41				411	76.7%	536	
長尾中	32	31	24			60	24	45	70	44				52	50			48					480	79.7%	602	
西谷中					8							10			12								30	68.2%	44	
宝塚中	33	33			50	31	31				52			66	29	65		11					401	81.8%	490	
高岡中	13	30		26	38	23	16	11		20	29			33	26								238	73.7%	323	
南ひまわり丘中	24	27			25	51	31	25				72	15	84	27	18	19						418	85.8%	487	
安倉中	14	34		35	29	21	23	13	18		30		7	38	29		20						311	73.2%	425	
中山五月台中	12				32	32	19			12	22			20	4	22							175	66.8%	262	
御嶽山中	26	27		30	24	35	20	29	13	17	84		23	57	37					40	12	19	493	88.7%	556	
光刀丘中	28	23		39	39	40	27	14	35			48		66	21	15			29				424	87.2%	486	
山手台中	23	34		58	38	44	28				42	76		58	30								431	78.5%	549	
計	235	273	38	253	353	381	263	14	212	183	181	429	25	57	552	313	120	64	78	70	40	12	19	4,165	79.8%	5,218

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校教育課：実証事業の実施と実施団体の連絡調整
- ・スポーツ振興課：スポーツ関連団体との連絡調整

##### ◎首長部局

- ・市民協働推進課：まちづくり協議会への部活動地域移行説明会 日程調整など

### 年間の事業スケジュール

令和5年6月	第1回検討協議会開催
令和6年4月	中山五月台FC 活動実施
令和6年5月	FC宝塚第一 活動実施
令和6年7月	教職員アンケートの実施 (地域移行後も指導を望む教員の把握)
令和6年8月	第2回検討協議会開催
令和6年10月	中学1・2年生・保護者アンケート実施
令和6年12月	・第3回検討協議会開催 ・小学5・6年生・保護者アンケート実施
令和7年1月	・宝塚市スポーツ協会説明会開催 ・保護者説明会開催
令和7年3月	第3回検討協議会開催

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	12校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（サッカー部）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	0 人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
中山五月台 FC	地域クラブ	サッカー	週 5 回程度	平日 16:00~ 18:00 休日 9:00~ 12:00	中学校 1年~ 3年生	令和6年 4月~	宝塚市立 中山五月 台中学校	2 人	なし	月会費 1000 円	中体連・ サッカー協会
FC宝塚第一 Rossignol	地域クラブ	サッカー	週 4 回程度	平日 16:00~ 18:00 休日 9:00~ 12:00	中学校 1・2年生	令和6年 5月~	宝塚市立 宝塚第一 中学校	2 人	なし	なし	中体連・ サッカー協会

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 活動拠点校では、新入生に向けて部活動紹介を行い、地域クラブの紹介を通じて入団する生徒を募集しました。

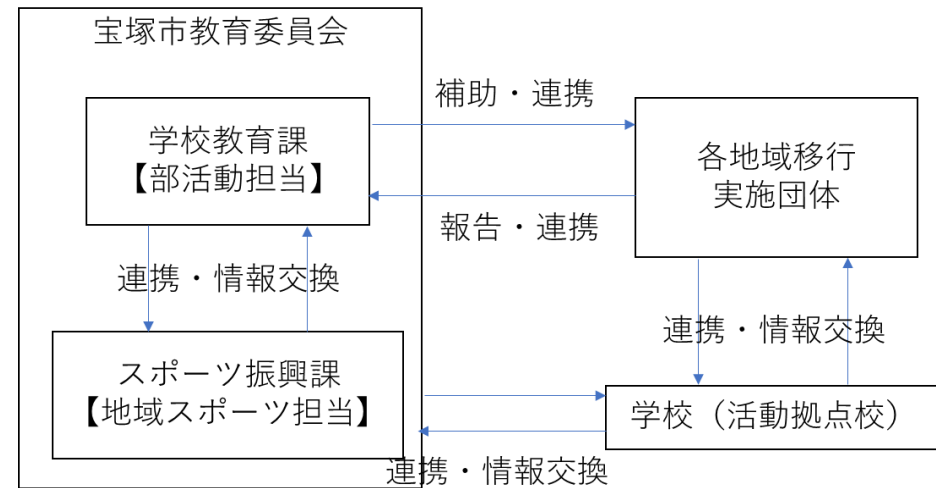
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ● 中山五月台FC 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	中山五月台FC
期間と日数	期間：令和6年4月～ 日数：週5日程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	宝塚市立中山五月台中学校
主な移動手段	徒歩、公共交通機関など
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ● 統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者、教育委員会との連携する

##### ● 主任指導者 1名

役割：学生指導者と連携して、生徒の指導を行う

##### ● 学生スタッフ（補助指導者） 3名

役割：主任指導者と連携して、生徒の指導を行う

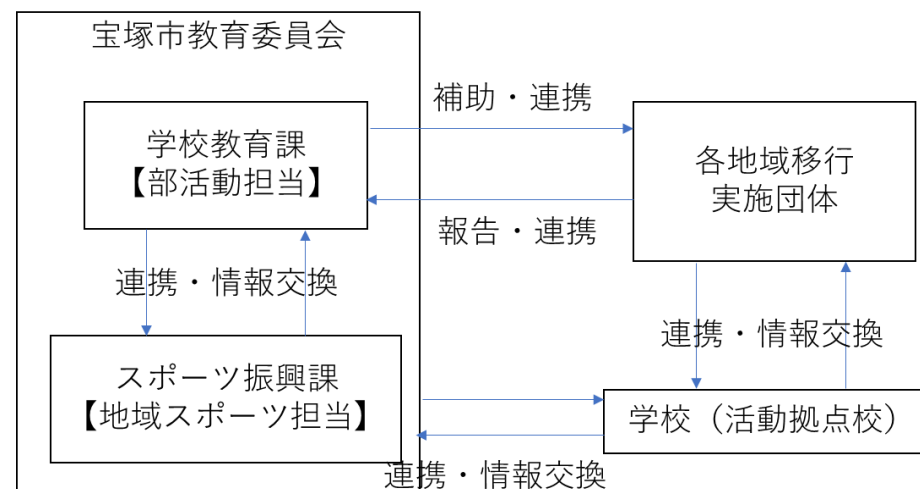
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●FC宝塚第一 Rossignol 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	FC宝塚第一 Rossignol
期間と日数	期間：令和6年5月～ 日数：週4日程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	宝塚市立宝塚第一中学校
主な移動手段	徒歩、公共交通機関など
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

##### ●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者、教育委員会との連携を行う

##### ●主任指導者 1名

役割：統括責任者と連携して、生徒の指導を行う。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

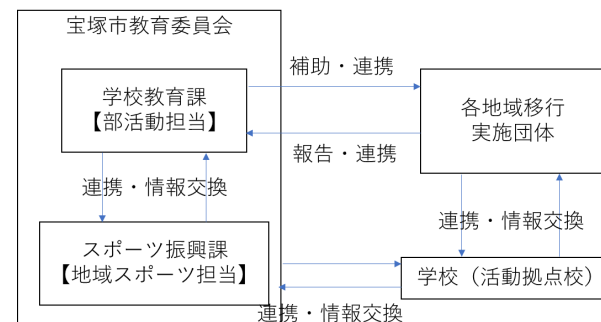
##### 取組事項

中山五月台中学校と宝塚第一中学校のサッカー部を運営する団体である中山五月台FCとFC宝塚第一の活動を整備します。地域移行実施クラブの拡大と実施団体の活動を強化し、地域移行クラブのモデルとしての取組を進めます。また、中体連に登録し、大会への参加を目指します。教員が全く関与しない運営団体として、平日・休日を問わず、完全に地域移行してクラブ運営を行っています。

##### 取組の成果

地域の指導者のみでクラブを運営し、教員が関与しない体制を構築することができました。令和5年度から中山五月台FCは、地域クラブのモデルとなることで、宝塚市立宝塚第一中学校のサッカー部をスムーズに地域移行させることにつながりました。中山五月台FCは近隣の小学校年代チームとも指導者が連携しているため、子どもたちが安心してサッカーを楽しむことができます。クラブの選手数も3学年で21名となり、廃部となった部活動とは思えないほど選手が増える結果となりました。

中山五月台FCでは学生のスタッフを含めて5名で指導を行っており、指導者は全員サッカーを競技として経験した大人です。令和5年度に実施したアンケートの結果から、子どもたちにとってクラブ活動が充実していることが明らかになりました。



##### コーディネーターの具体的な動きの実績

本市ではコーディネーターを配置していないが、教育委員会の指導主事がコーディネーターの役割を担っている。地域クラブのニーズや課題について、地域指導者や学校からの意見をいただき、検証を行い、今後の地域移行を進めるために教育委員会内で協議しています。

##### 今後の課題と対応方針

適切な受益者負担の在り方を検証します。

活動場所の確保をするための連携を図ります。

地域クラブの運営を行っていく中で、表出する課題の検証などを行います。



# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

#### 取組事項

令和6年度に指導者（担い手）に報酬を支払い、今後、適切な受益者負担の基準を設定します。また、適切な指導者報酬を整理します。誰でもスポーツや文化芸術活動の機会を確保するため、困窮世帯への支援も含めて、地域クラブの在り方について整理します。

#### 地域クラブに係る経費

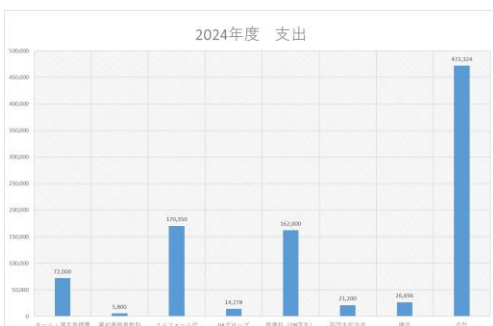
##### ■イニシャルコストの分析

サッカークラブを立ち上げるにあたり、ユニフォームを新調することは大きなコストがかかります。これまで学校備品として使用していたゴールネットや、学校の部活動で共用していたラインカーなど、クラブが単独で購入することになると高額なコストが発生します。したがって、学校施設を利用する団体への学校備品の貸与について、備品や消耗品の基準を検討することが重要です。

##### ■ランニングコストの分析

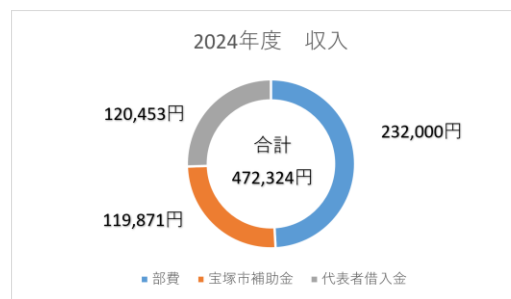
ボールやビブス、マーカーなど、練習を行うためには様々な道具が必要です。また、学校施設の原状復帰やグラウンド整備のために、レーキなどの消耗品も必要です。劣化による怪我のリスクを避けるためにも、安全な道具を購入することは重要です。ランニングコストを下げるためには、拠点となる学校に複数のクラブを配置することも検討する必要があります。

#### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算



クラブ設立2年目の支出合計は472,324円でした。今年度の中山五月台FCの所属生徒数は21名でしたので、今年度の支出から試算すると、1人当たりの月額は1,800～1,900円となります。しかし、令和5年度においては、クラブ設立時にユニフォーム代として51万円がかかっているため、設立時にはさらに負担が増加します。

#### 収支バランス



令和6年度の収入については、部費が232,000円であったが、実証事業として消耗品とスポーツ保険料に119,871円の補助金が支給されました。それでもなお、代表者が実費で負担しているため、収入が不足していることは明白である。現状では、月額増加や生徒数の増加によってしか解決策は見当たりません。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



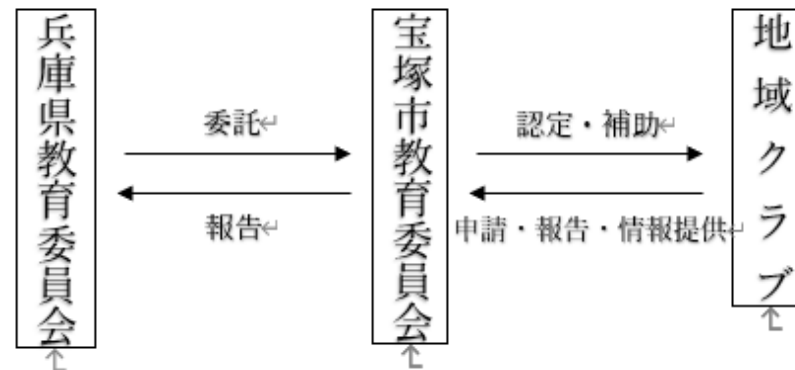
### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

##### 取組の成果

令和6年度は、実証事業として各クラブに補助金を支給しました。支給内容は消耗品費と保険代です。消耗品費は、宝塚市内の137の部活動における中学校からの運営費として、平均8万円が支給されます。また、保険代として生徒1人あたり800円が補助されます。

消耗品費と保険代以外については、現行の部活動と同様の形態で運営するため、必要な費用を把握することが容易になりました。宝塚市ではサッカー競技のみが実証事業として行われており、サッカーの場合、協会へのチーム・選手登録に費用がかかるため、他の競技とは異なる点があります。しかし、2年目の必要額としては、1人あたり月額1,800円～1,900円の受益者負担で運営可能です。クラブの所属人数によって月額は変動しますが、現行の運動部では20名程度が一般的な人数とされているため、受益者負担の上限を決定する際の参考となります。



##### 今後の課題と対応方針

課題としては、クラブの設立初年度にはユニフォームの新調など、インシャルコストが高額になることはやむを得ません。現行の部活動から移行できる地域クラブについては、整地用のレーキや備品など、引き続き活用できるものは良いですが、現行の部活動にはない新規の地域クラブを立ち上げる場合には、新たに備品や消耗品を購入しなければならず、さらに高額になります。

クラブを立ち上げる際に費用が高額になると、指導者（担い手）の確保にも影響が出るため、クラブ発足時には一時金的な支援や学校の備品の提供が求められます。また、備品についても日の経過により劣化し、生徒が安全に活動できない状況は避けなければなりません。生徒が安心・安全に活動できる環境整備には、継続的に費用が必要です。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

推進体制として、宝塚市部活動地域移行検討協議会を3回開催し、部活動の地域移行を協働により進めてきました。学識経験者として大学教授を招き、社会体育団体や文化芸術団体の代表者、学校長、部活動顧問の代表者、保護者の代表者等で構成しています。地域移行の進め方や課題の抽出、その対応等を検討するために、保護者、生徒および教職員の意向を把握しました。

令和6年度は実証事業として、2つのサッカークラブを運営し、成果と課題を得ました。成果として、地域移行実施団体が活動場所を確保し、受益者負担を含め持続的な運営が可能な状態になっていることが挙げられます。中山五月台FCは学生スタッフも含めて5名の指導者を確保し、生徒にとって安全・安心なクラブを運営することができました。

一方、課題としては受益者負担の基準設定が挙げられます。クラブを設立し運営するためには、イニシャルコストやランニングコストがかかります。受益者負担が高額とならないように、公的資金の適切なバランスを検証しつつ、基準の検討を行っていく必要があります。

#### ●成果の評価

地域移行実証団体が持続的な運営を可能にするためには、学校や教育委員会との連携が必須となります。令和6年度は、地域クラブの運営責任者と学校が連携し、学校施設の開放日時などを密に連絡することで、子どもたちの活動の場をスムーズに提供できました。また、中体連にも登録し、大会に出場した実績が今後新たに地域移行を進める団体にとって良い基準となりました。宝塚市部活動地域移行検討協議会では、2つのクラブの運営責任者にも出席していただき、運営団体としての成果と課題を共有し、協議することができました。これら2つの地域クラブをモデルとし、活動場所の確保や指導者の質の保障を行うことで、幅広い種目で持続的な運営が可能なクラブを設立していきます。

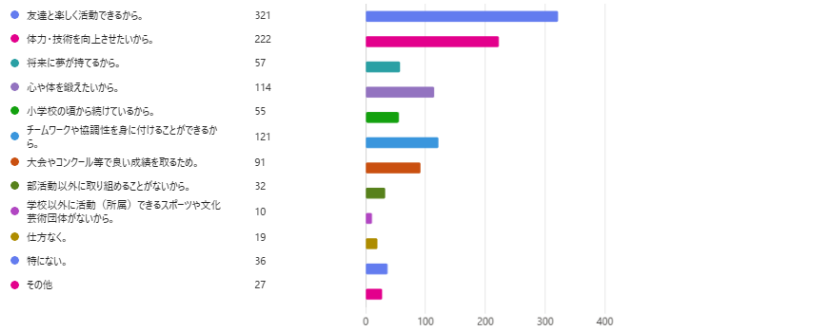
#### ●今後に向けて

令和8年度の中体連等の大会や各種コンクール、発表会等の後（3年生引退後）、部活動を一齐に（完全に）廃止し、新体制から地域移行による地域クラブを開始します。そのため、令和7年度の取組として、地域移行後も指導を望む教員を中心に、種目によっては拠点校方式も含めて活動を集約させ、教職員による地域移行の準備段階の活動に取り組みます。（地域移行が可能な部活動は順次移行します。）それと並行して、宝塚市スポーツ協会を窓口としながら、それぞれの種目ごとの協会と連携協力し、指導者や担い手の確保に努めます。文化部活動においても、様々な文化芸術関係の連盟や協会に協力を求め、少しでも多くの受け皿（担い手）の確保に努めます。

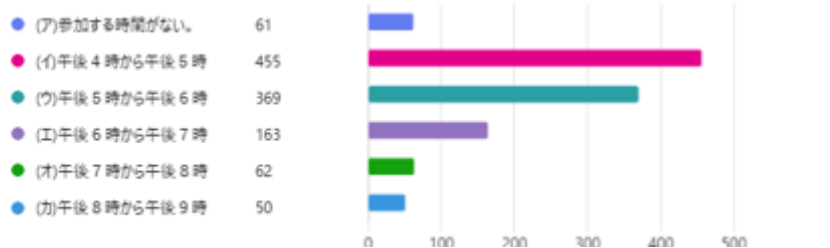
## アンケート結果・参加者の声

### ● アンケート結果

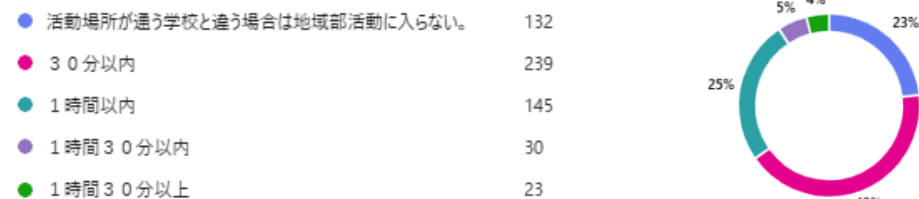
Q.学校の部活動に所属する目的をお答えください。  
(最大で3つまでお答えください) ?



Q.平日(登校日)の活動に参加可能な時間帯を教えてください。



Q.活動場所が通う学校ではない場合(別の学校の運動場や体育館、校舎などを使う場合)、移動時間はどれくらいまでの時間を考えていますか。



### ● 参加者の声

#### 保護者

部活動から地域クラブへ移行を検討する際には、子どもたちの移動時間を考慮しつつ、地区(エリア)を念頭に置いてクラブの設立をお願いしたいです。

#### 保護者

地域クラブの受け入れ先の一覧や活動場所、加入方法について周知していただきたいと考えています。また、地域指導者に対しても教育的意義を継承するための研修を行っていただければと思います。

#### 指導者

屋外の部活動では、平日の勤務時間外に指導を行うため、施設の整備をお願いしたいです。子どもたちにとって、有意義な活動ができる環境がなければ、クラブに参加する意欲も湧きません。

#### 指導者

活動場所が学校の場合、学校教員と連携を取りながら調整を行います。地域クラブの運営と学校運営の接続点を築くことが課題だと感じています。

## アンケート依頼・広報資料

令和8年度に部活動から地域クラブに移行することの周知を行い、小学校5・6年生、中学校1・2年生およびその保護者を対象に、部活動地域移行後の地域クラブにおけるニーズを把握するための調査を実施しました。中学生とその保護者には令和6年10月に実施し、小学生とその保護者には令和6年12月に行いました。また、小中学生とその保護者を対象に、令和

7年1月から2月にかけて全7回の部活動地域移行保護者説明会を市内の公民館3か所で開催しました。説明会では、宝塚市としての部活動地域移行に関する説明を行い、保護者からご意見をいただくとともに、今後の進め方についての意見も伺いました。

**宝塚市の子とモチモチって魅力のある**  
スポーツ・文化芸術活動の機会を継続的に確保するため

**中学校の部活動を令和8年(2026年)の各種大会(3年生の引退)後に地域クラブ活動に移行します!**

現在の小学校5年生や中学校2年生、小学5年生や中学1年生時の各種大会後に地域クラブ活動に移行します。

**宝塚市における部活動の地域移行の方向性**

**機会の確保**  
方向性①

将来にわたり、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して楽しむことができる機会を確保します。

**教育的意義・役割の継承・発展**  
方向性②

部活動の教育的意義や役割を継承・発展させつつも、専門的な技術指導ができる指導者を確保します。

**令和8年(2026年)の各種大会終了後に移行**  
方向性③

令和8年度(2026年度)の各種大会(3年生(現中1)引退)後に学校部活動から地域クラブ活動に移行します。

**”地域クラブ活動”への移行のメリットは**

- ①地域の専門性の高い指導者から指導が受けられます。
- ②複数のスポーツ・文化芸術活動に参加することができます。
- ③自分の目的にあった活動に参加ができます。
- ④進学する学校以外の活動にも参加ができます。

**アンケートにご協力ください**  
※アンケート調査は令和7年1月15日(水)までに

子どもたちや保護者の皆さまのご意見もお伺いしながら、部活動の地域移行に取り組んでいきます。そのため、小学校5年生と6年生の児童とその保護者を対象としてアンケート調査を実施しますので下記の二次元コードからアンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。

保護者用

児童用 (小5・小6)

宝塚市教育委員会 学校教育課  
電話 0797-77-2028 (直通)  
e-mail n-takarazuka0112@city.takarazuka.lg.jp

**部活動の地域移行のQ&A**

**[Q01] 令和8年度で部活動がなくなるのですか？**  
**[A1] 教員が顧問を務める部活動から地域の指導者が運営する地域クラブ活動に移行するものです。**

**[Q02] 誰が地域クラブ活動を指導するのですか？**  
**[A2] 地域で活動している指導者やホストの業務に支障が生じない範囲で本人の希望により地域クラブ活動での指導を望む教職員が指導に当たります。**

**[Q03] 学校部活動から地域クラブ活動に移行すると保護者の経済的負担はどうなるのでしょうか？**  
**[A3] 地域クラブ活動への移行後は学校での活動ではなくするため、保険料や活動費は、原則として受益者(保護者)負担となります。ただし、適度の負担とならないよう適切な地域クラブ活動の運営の在り方について検討していきます。**

**[Q04] 活動場所や活動時間、道具の貸出は今まで通りですか？**  
**[A4] 学校部活動の地域移行後の地域クラブ活動には、学校の運動場や校舎(音楽室など)を地域クラブ活動に開放する予定です。活動時間は、原則として市の部活動ガイドラインに沿って運営することとしています。  
※「部活動のガイドライン」は地域移行の進捗状況に応じて実態に合わせて、適宜、改正します。**

**[Q05] 地域クラブ活動中にケガをした場合はどうなるのですか？**  
**[A5] 学校部活動では、日本スポーツ振興センター(JSC)の災害共済給付の保障の対象になりますが、地域クラブ活動では対象外となるため、別途、スポーツ保険に加入していただきます。**

**[Q06] 地域クラブ活動として、今まで通り大会に参加することはできますか？**  
**[A6] 中体連主催の大会は、地域クラブ活動も大会に参加できます。**

**「宝塚市における中学校部活動の地域移行基本方針」を含む部活動の地域移行に関する取り組みは、右記の二次元コードから宝塚市教育委員会のホームページでご紹介しています。**

**【下記のとおり説明会を開催いたします】**

令和7年1月11日(土)19:00-20:00	市立西公民館2階ホール
令和7年1月12日(日)19:00-20:00	市立東公民館2階ホール
令和7年1月13日(月祝)19:00-20:00	市立中央公民館1階ホール

保護者・児童アンケートのURL

保護者用	<a href="https://forms.office.com/r/gvNgI8gubh">https://forms.office.com/r/gvNgI8gubh</a>
児童用	<a href="https://forms.office.com/r/TTU81PUuRY">https://forms.office.com/r/TTU81PUuRY</a>

【生徒・保護者へのアンケート依頼・地域移行啓発チラシ】

【アンケート内容】

<生徒用アンケート(Web 回答)>

**資料1**

1 【全ての生徒】  
今、あなたの学年を教えてください。  
(1) 1年生  
(2) 2年生

2 【全ての生徒】  
あなたは、今、学校の部活動に所属していますか？  
(1) 所属していない。  
(2) 所属している。

3 【上記2で(1)と回答した生徒のみ】(学校の部活動に所属していない生徒)  
学校の部活動に所属していない理由をお答えください。(最大で3つまでお答えください)  
(1) 学校の部活動以外(学校外)のスポーツ・文化芸術団体で活動しているから。  
(2) 他にすることがあって、部活動に参加(出席)する時間がないから。  
(3) 勉強に集中したいから。  
(4) 入りたい部活動がないから。  
(5) 運動の活動時間が長すぎるから、活動日数が多すぎるから、指導が厳しすぎるから。  
(6) 運動や文化芸術活動が苦手だから。  
(7) その他( )  
(8) 特にない

4 【上記2で(1)と回答した生徒のみ】(学校の部活動に所属している生徒)  
学校の部活動に所属する目的をお答えください。(最大で3つまでお答えください)  
(1) 友達と楽しむ活動ができるから  
(2) 体力・技術を向上させたいから  
(3) 得意な夢が持てるから  
(4) 心や体を鍛えたいから  
(5) 小学校の頃から続けているから  
(6) チームワークや協調性を身に付けることができるから  
(7) 大会やコンクール等で良い成績を取るため  
(8) 学校以外に活動(所属)できるスポーツや文化芸術団体がいないから  
(9) 仕方なく  
(10) その他( )  
(11) 特にない

**資料2**

5 【上記2で(1)と回答した生徒のみ】(学校の部活動に所属している生徒)  
部活動に入ってから、自分の中で良い変化が起こったと感じることについてお答えください。(最大で3つまでお答えください)  
(1) 体力がついてきた。  
(2) 技術が向上してきた。  
(3) 精神力がついてきた。  
(4) 将来に夢が持てるようになった  
(5) あいさつや礼儀などの社会性が身に付いてきた。  
(6) 責任感がついてきた。  
(7) 協調性がついてきた。  
(8) 新しい友達が増えてきた。  
(9) 楽しみが増えた。  
(10) 学校へ行くことが楽しく感じるようになった。  
(11) その他( )  
(12) 特にない

6 【全ての生徒】  
あれば良いと思う部活動をお答えください。今、部活動に所属している生徒は、その所属している部活動も含めてあれば良いと思う部活動をお答えください。(最大3つまでお答えください)  
(1) 野球(軟式)  
(2) サッカー  
(3) ソフトボール  
(4) 軟式テニス  
(5) 硬式テニス  
(6) 陸上  
(7) バスケットボール  
(8) バレーボール  
(9) 卓球  
(10) 剣道  
(11) 柔道  
(12) バドミントン  
(13) ダンス  
(14) ラグビー  
(15) 新体操  
(16) コース(合宿)  
(17) 美術  
(18) 茶道

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【中山五月台FC 令和6年度新人大会】



【FC宝塚第一 Rossignol 練習の様子①】



【中山五月台FC リーグ戦の様子】



【FC宝塚第一 Rossignol 練習の様子②】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年6月

第1回宝塚市部活動地域移行検討協議会設置、開催

令和6年度から実証事業の取り組み

令和6年8月

第2回宝塚市部活動地域移行検討協議会

指導を望む教職員の調査

令和6年12月

第3回宝塚市部活動地域移行検討協議会

令和7年1月

記部活動地域展開について保護者説明会の開催

#### ●ステークホルダー

学校、宝塚市スポーツ協会、各協会、市長部局、市教委

#### ●経過

令和5年度より、宝塚市に部活動地域移行検討協議会を設置し、部活動の地域移行をどのように進めていくかを協議しています。令和5年度から中山五月台中学校を拠点に活動していた中山五月台FCを実証事業のモデルとして運営しています。また、令和6年8月には宝塚市部活動地域移行基本方針を策定しました。第2回の協議会では、指導を希望する教員の調査を行うことを決定しました。アンケート調査の結果を受けて、各競技顧問と共に部活動を地域に展開していく方法や、指導を希望する教員の考え方を検討しました。第3回の協議会では、これまでの進捗状況の報告を行い、教員以外の指導者（担い手）を確保するため、宝塚市スポーツ協会に説明し、各協会への説明会を実施し、指導者（担い手）を求めました。

令和7年1月からは保護者説明会を実施し、部活動を終了し地域展開することについて説明しました。

#### ●実施内容、工夫した点等

将来にわたり、生徒がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、小中学生とその保護者を対象にアンケートを実施し、ニーズを把握しました。また、学校の部活動における教育的意義や役割については、継承・発展させながら、必要に応じて段階的に地域に移行していく方針です。そのために、指導者（担い手）として、指導を望む教員と宝塚市スポーツ協会に説明し、指導者の質と量を考慮して丁寧に進めています。

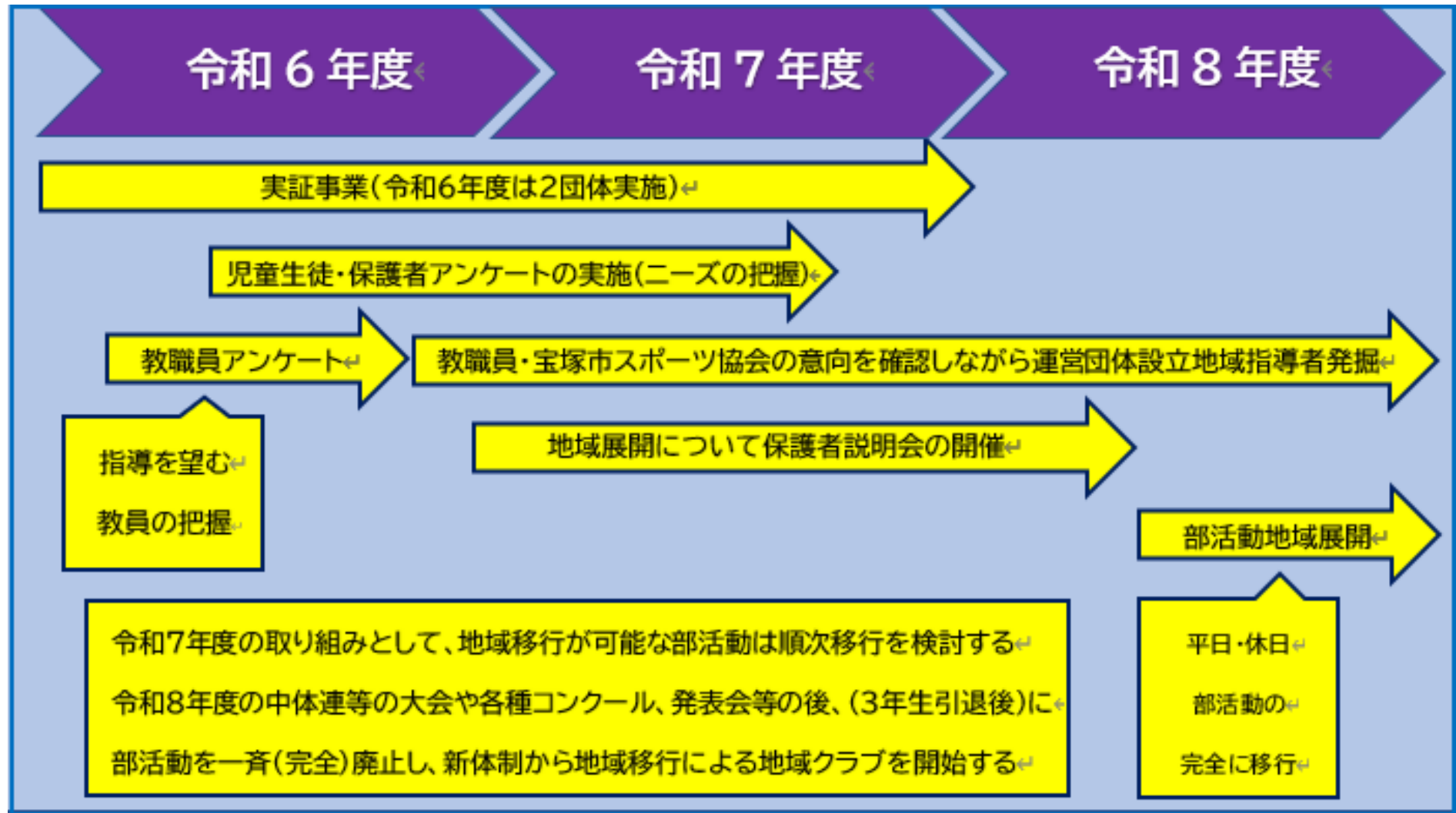
#### ●今後の展開

令和7年度を取組として、地域移行後も指導を望む教員や地域指導者を中心に、種目によっては拠点校方式も含めて活動を集約し、地域移行の準備段階の活動に取り組みます。地域移行が可能な部活動については、順次移行していきます。

保護者への説明会についても、進捗状況を報告するために、状況に応じて適宜開催を検討していきます。運営団体については、ホームページや学校を通じての便りで、生徒や保護者に情報提供を行っていきます。

### 3. 今後の方向性

#### 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 兵庫県 高砂市

自治体名：兵庫県 高砂市

担当課名：教育委員会学校教育課

電話番号：079-443-9054

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	34.38km <sup>2</sup>
人口	84,302人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	2,337人
部活動数	56部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

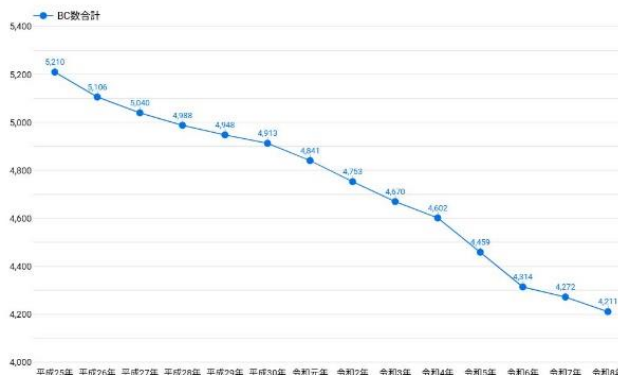
## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

高砂市は、6校の公立中学校があり、生徒数2,337人で部活動は56部活動が活動している。少子化に伴い、部活動ごとの人数減少は進んでいる。令和6年度、3部活動が、人数不足のため他校と合同チームとして大会への出場をしている。人数確保のための課題を抱えている部も少なくはない。生徒にとっては自分のやりたい部活動がなく、あったとしても少ない部員数の部もあり、魅力が感じられない状況が生じる可能性がある。このため、部活動が衰退する恐れがある。また、少子化による学級数の減少により、教員数も減

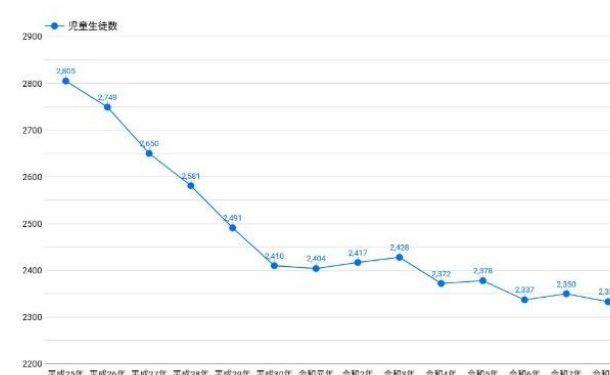
少する。顧問が配置できない事態になれば、学校は部活動数を削減せざるを得ない。このように教職員の部活動指導に係る負担が増しており、学校における働き方改革が求められている。

高砂市においても、「中学生にとってふさわしいスポーツ・文化芸術環境等をどのように実現するのか」の体制整備が必要である。

高砂市教育部と健康こども部で担当事務局をつくり、企画・運営・管理等を行う。事務の進捗状況により、他組織への移管、他の団体への委託も視野に入れて検討を行う。



高砂市立小学校児童数の推移



高砂市立中学校生徒数の推移

### 【課題】

現在の高砂市の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動地域展開の推進、学校との連携、スポーツ協会、各種団体との連携、地域指導者の確保等
- ・教育総務課…学校施設の整備
- ・生涯学習課…各種団体との連携

##### ◎首長部局

- ・文化・スポーツ課…スポーツ協会、各種団体との連携、公共施設との連携
- ・財政課…予算措置
- ・企画課…企画調整
- ・公共施設マネジメント室…学校施設の整備

### 年間の事業スケジュール

令和6年 4月	サッカー部活動地域移行実証研究実施
令和7年 3月	
令和6年 6月	第1回部活動の地域移行に関する庁内委員会の開催
令和6年 6月	第1回部活動の地域移行に関する検討委員会の開催
令和6年 9月	ソフトボール部活動地域移行実証研究の実施
令和6年 9月	中学校教職員アンケート調査
令和6年10月	各種団体への聞き取り調査
令和6年11月	第2回部活動の地域移行に関する庁内委員会の開催
令和6年12月	第2回部活動の地域移行に関する検討委員会の開催
令和6年12月	部活動地域展開研修会
令和6年12月	陸上部活動地域移行実証研究の実施
令和7年 1月	ソフトボール部・陸上部活動地域移行実証研究の実施
令和7年 2月	ソフトボール部・陸上部活動地域移行実証研究の実施
令和7年 2月	第3回部活動の地域移行に関する庁内委員会の開催
令和7年 3月	第3回部活動の地域移行に関する検討委員会の開催

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	6校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（3部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	21人	全体の運営スタッフ数	5人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
サッカー地域クラブ	高砂市	サッカー	年50回 (休日)	8:00～ 17:00 時間内	1年19名 2年15名 3年17名	4月～3月	中学校 運動場 高砂市 スポーツ広場	8人	5人	実証研究中 会費なし	中体連：部 活動
ソフトボール地域クラブ	高砂市	ソフトボール	年6回 (休日)	8:00～ 17:00 時間内	1年5名 2年6名 3年0名	4月～3月	中学校 運動場	4人	5人	実証研究中 会費なし	中体連：部 活動
陸上競技地域クラブ	高砂市	陸上競技	年6回 (休日)	8:00～ 17:00 時間内	1年56名 2年48名 3年3名	4月～3月	高砂市 陸上競技場	8人	5人	実証研究中 会費なし	中体連：部 活動

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

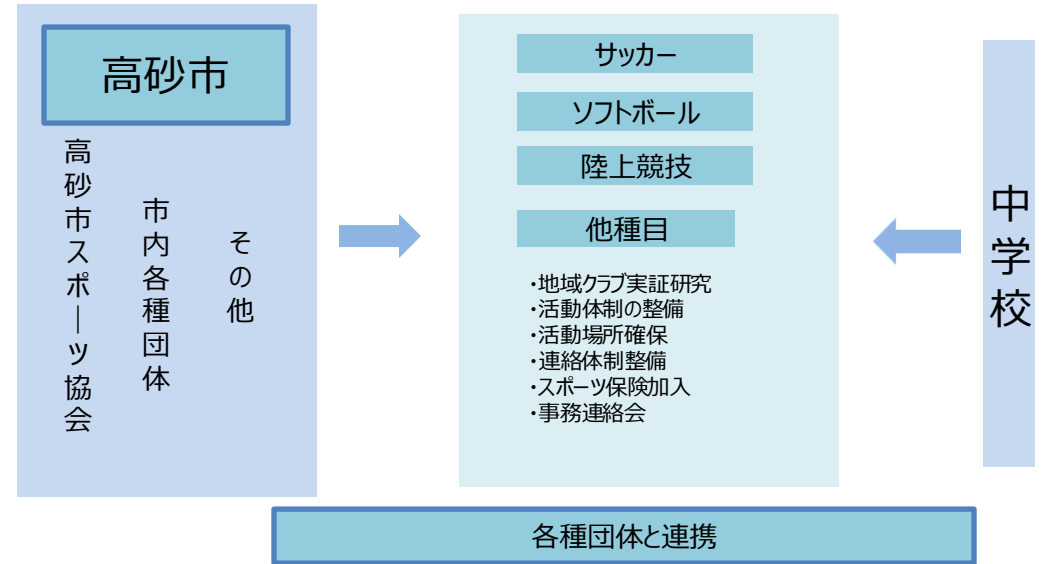
- 各種スポーツ協会と連携して、啓発活動等を実施予定である。

## 主な取組例

### ●地域スポーツクラブへの 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、ソフトボール、陸上競
運営団体名	高砂市
期間と日数	サッカー 4月～3月（年50回程度） ソフトボール・陸上競技（年6回程度）
指導者の主な属性	中学校教職員、各スポーツ協会委員
活動場所	中学校運動場、高砂市スポーツ広場、 高砂市陸上競技場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	参加費なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

#### ●代表者

役割：活動における管理を行う

活動計画・報告等、生徒・保護者と連携、事務局と連絡調整

#### ●地域指導者 3名以上

役割：活動において生徒への指導を行う

#### ●スタッフ

役割：活動において、指導者の補助を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 部活動コーディネーターが中心となって、部活動地域展開の推進を行う。また、学校とスポーツ協会等の団体へ部活動の地域展開に関する連絡調整を行い、指導者の確保に努める。
- 高砂市部活動の地域移行に関する庁内委員会、検討委員会を開催し、高砂市中学校部活動の在り方を検討する。そして、中学生にとってふさわしいスポーツに親しめる環境を構築する。
- 運営体制の整備を行い、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

##### 取組の成果

- 事務局と学校、各種スポーツ協会が連携を図り、部活動の地域移行実証研究を進めてきた。部活動コーディネーターが、学校と各種スポーツ協会とのパイプ役を担い、関係者が相談を積み重ねてきた。地域展開への共通理解が深められた。
- サッカー部活動の地域展開として、市内2校のサッカー部と市内のクラブチームとサッカー協会が合同となって、実証研究を行ったことは、他の部活動へのモデルとなっている。
- サッカー部活動地域展開は、ソフトボール部、陸上競技部の地域展開へつながっている。

地域指導者

スポーツ協会

サッカー協会

ソフトボール協会

陸上競技協会



生徒が楽しめる環境を創造する

中学生

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

【部活動コーディネーター】

- ・高砂市部活動地域展開推進計画を策定
- ・部活動地域展開におけるスケジュール策定
- ・学校と各種団体との連絡調整やヒアリング等を実施
- ・部活動地域移行に関する協議会の調整、計画等を実施
- ・各首長部局との連絡調整

##### 今後の課題と対応方針

- 現時点では教育委員会が事務局となって推進している。高砂市教育部と健康子ども部で担当事務局をつくり、企画・運営・管理等を行う。
- 地域クラブへの展開に向けて、事務局と学校と各種スポーツ協会等の団体が連携を更に深める。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

#### 取組事項

- ・高砂市教育部と健康子ども部と連携を図り、スポーツ協会等の団体へ専門性のある地域指導者の協力を依頼する。
- ・各種スポーツ協会へヒアリング等を実施し、協力への意向を聞き取る。
- ・教職員等の兼職兼業の仕組みを含み、地域指導者による複数体制を構築する。
- ・事務局、学校、地域指導者、各種スポーツ協会代表が集まり、指導者連絡会を行う。

#### 種目

- ・サッカー
  - ・ソフトボール
  - ・陸上競技…など
- 高砂市スポーツ協会加入  
の24団体

#### 資格有無

- ・日本スポーツ協会公認資格…など

#### 取組の成果

- ・各種スポーツ協会等の団体と連携を図り、教職員と地域指導者が連携して生徒への指導にあたった。部活動指導に関わることを希望する教員は、兼職兼業の申請を行った。教員が関わることで、欠席などの緊急連絡や生徒同士のトラブルもなく、スムーズな活動ができた。また、教員だけでなく専門性の高い指導者がともに指導行うことで、生徒のニーズに合った指導となった。
- ・指導者連絡会を行うことにより、指導体制において、全体指導とグループごとの指導による細かな指導体制が構築できた。

#### 今後の課題と対応方針

- ・指導者一人で指導することもなく、複数で分担してローテーションを組む必要がある。
- ・指導者の負担軽減のため、ボランティアスタッフを取り入れる。
- ・地域指導者に係る経費について、報償費についての検討を行う。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- 中学校長会において、部活動地域展開等の進捗状況を知らせるとともに、高砂市部活動改革の方向性を説明する。
- 各種団体の会合に出向いて、高砂市の部活動地域展開の取組及び今後の方針等を説明する。
- 各種スポーツ協会等の団体へ専門性のある地域指導者の確保を協力依頼する。

##### 取組の成果

- 部活動コーディネーターがスポーツ協会等の団体とのパイプ役を担い、地域指導者を確保するための役目を担っている。地域団体の方々が部活動の地域展開に参画することにより、地域とともに、子供を育てることができる。
- 教育委員会が中心となり、他部局への部活動の地域展開への推進を行うことにより、部活動地域展開への意識が高まった。
- 各種団体へ部活動地域展開を説明することにより、協力団体が増えている。

##### 今後の課題と対応方針

- 指導者確保には幅広いスポーツ団体との連携が必要である。
- 今後は、多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携の強化が必要である。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

- 自校に該当する部活動のない生徒が参加できる地域クラブの体制整備を図る。
- こどものニーズに応じた種目の活動ができる地域クラブの体制整備を図る。

##### 各自治体の役割

- 高砂市教育委員会
  - ・地域クラブ運営、予算管理
  - ・関係機関との連絡、調整
  - ・理解促進に向けての広報
  - ・諸謝金等の事務処理
- 高砂市健康子ども部
  - 文化・スポーツ課
  - ・関係機関との連絡、調整

##### 移動手段

- 実証研究において、生徒の活動場所までの移動手段を検討してきた。保護者送迎と自転車利用としている。

##### 事務局運営の方法

- 高砂市教育委員会を中心に運営を行っている。
- 部活動コーディネーターが関係団体等との連絡調整を行っている。
- 予算については、教育委員会で予算を算出している。

##### 取組の成果

- 市内のサッカー部と地域のサッカークラブが連携し、指導者同士が活動計画を立てたり、活動後の反省会を設けたりした。詳細に打ち合わせを行ってきたので、生徒の活動はスムーズであり、練習内容が充実した。
- 今後、部活動地域展開の分野を拡充、拡大する予定が立った。

##### 今後の課題と対応方針

- 学校に部のない学校の生徒も参加できる地域クラブとなるよう検討する。
- こどものニーズに応じた種目の活動ができる地域クラブの分野を検討する。
- 平日の部活動との連携が課題である。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項

- 学校と地域の各種団体等が連携して、中学生にとってふさわしいスポーツ活動の場をどのように実現するのかを推進する。
- 専門的な指導ができていく教員の負担軽減を行う。
- 専門性の高い指導者を確保し、生徒のニーズに応じた指導ができる体制を整備する。

##### 活動の詳細

参加人数	107人	指導者数	7人
属性	陸上地域クラブ		
具体的な内容	陸上部活動の地域展開として、市内6校の陸上部が一同に集まり、実証研究を行った。休日の地域展開として、陸上競技場に集合し、陸上の各種目ごとに専門の地域指導者から指導を受ける。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他校の生徒と一緒に練習ができて、楽しかった。</li> <li>● 専門的に指導者から学ぶことで、意欲と技能が向上していると感じていた。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 陸上部は種目ごとに専門的な指導者が必要である。</li> <li>● 休日は全中学校から集まり活動はできる。</li> </ul>		
運営経費	実証研究中は負担なし		

##### 取組の成果

- 事務連絡会を開催し、指導者が集まり、指導方法等の情報が共有できた。
- 複数で指導することで、中心に指導する人も毎回ローテーションできる。
- 専門的指導者により、きめ細かな練習ができた。

##### 今後の課題と対応方針

- どのクラブにおいても専門性の高い指導者が確保できるとは限らない。今後、人材確保のためスポーツ協会等の団体を中心に幅を広げていく取り組みを検討していく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

- 各学校の部活動の費用負担額を把握し、地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていくよう検討する。
- 地域クラブとして活動するにあたり、適正な費用負担額を算出する。
- 公費負担と受益者負担について、実証研究を踏まえて検討する。

##### 取組の成果

- 実証研究において、部活動の費用負担の項目が顕著となった。地域クラブを運営するにあたり、受益者負担と公費負担の検討ができた。
- スポーツ活動費の保険料については、生徒の保護者等や指導者自らが負担する検討ができた。
- 休日の地域指導者の年間の指導回数を設けることで予算額の見通しが立てられた。

##### 今後の課題と対応方針

- 地域指導者の報償費として、休日みの指導で、予算化している。今後、休日・平日ともに地域展開したときに指導者への報償費の検討が必要である。
- 受益者負担額が低廉な費用となるよう検討が必要である。そのためには、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

- 公共施設と学校施設を使用した実証研究を実施し、課題を把握する。
- 生徒の安全を確保するため、活動場所までの移動手段を把握する。
- 各部局と連携を図り、活動しやすい環境を構築する。
- 部活動の学校施設利用や道具等の管理等について検討する。

##### 取組の成果

- 陸上部活動の地域移行に向けた取り組みでは、公共施設を利用した活動を実施した。将来的に継続して活動できる場所の検討ができた。
- 道具類の準備について、指導者同士が連絡を取り合い、道具の共有ができた。

##### 今後の課題と対応方針

- 今後、地域クラブとして学校の施設を使用するにあたり、他の部活動との時間調整が必要となる。
- 学校に部活動地域展開の活動が競合しないよう、事業趣旨の理解等を求める。
- 地域指導者と学校が年間使用計画を話し合う必要がある。
- 平日の地域展開を実施する場合、学校の施設使用規定の検討が必要である。各部局と連携を図り、活動しやすい環境を構築する。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

令和5年度より高砂市庁内委員会、検討委員会を設置し、部活動の在り方について検討してきた。高砂市としてスポーツ協会等の各種団体と連携を図りながら、活動団体を確保してきた。

新たな地域クラブ体制を構築するため部活動地域展開推進計画やロードマップ等を策定している。

令和6年度は、活動団体となる地域指導者を確保するため、地域の各種団体へヒアリング調査を実施してきた。今後も部活動地域展開に向けて推進していく。

#### ●実施内容

令和5年度より部活動の実証研究として市内2校のサッカー部と地域のサッカークラブと合同で検証してきた。令和6年度はサッカーの実証研究として年間50回の休日の指導を地域指導者に委ね活動してきた。また、ソフトボール部・陸上競技の実証研究として、年間6回の実証研究を行ってきた。特に陸上部は市内中学校に部が存在しており、6校の生徒が集まって行った活動は今後の方針として検証に活かせることとなった。

#### ●成果の評価

令和5年度からのサッカー部の実証研究の取組は、高砂市としてモデルとなっている。初年度は、数回の実証研究を実施し、指導者の必要人数や活動場所での課題、活動費用の問題等が把握できた。その課題を受けて、次年度、年間を通しての休日指導となった。このように、ソフトボール部・陸上競技部においても実証研究として、年間6回の実証研究を行ってきた。特に陸上部は市内中学校に部が存在しており、6校の生徒が集まって行った活動は今後の方針として検証に活かせることとなった。来年度の実証研究に向けて、ひとつの方向性が見えてきた。

#### ●実施にあたっての課題

実証研究の実施において、活動に係る費用の負担の項目が顕著となった。地域クラブを運営するにあたり、受益者負担と公費負担の協議を進めていく。

各種団体にヒアリングを実施して、指導者の確保へはつながっている。運営団体としての系統にまでは結び付いていない。さらなる各種団体等への趣旨説明が必要となる。

#### ●今後に向けて

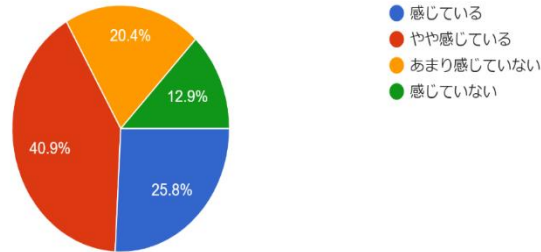
令和6年度に各種団体にヒアリングを実施し、中学校への活動協力を依頼してきた。今後は実証研究できていない部活動を学校と協力団体と連携を図るとともに、教職員の意向を聞き取り、高砂市としての部活動改革を進めていく。また、休日の地域展開から平日の地域展開に向けて推進していく。

今後、地域クラブとして運営するにあたり、学校や生徒、保護者の理解を得るための説明が必要となる。

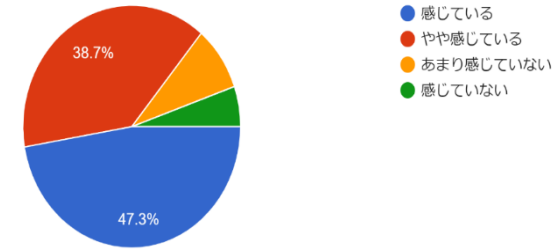
## アンケート結果

### ●アンケート結果

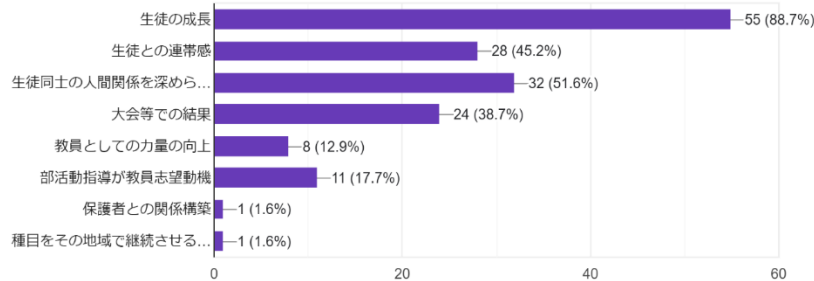
Q.あなたは、部活動指導にやりがいや楽しさを感じますか。  
(93件の回答)



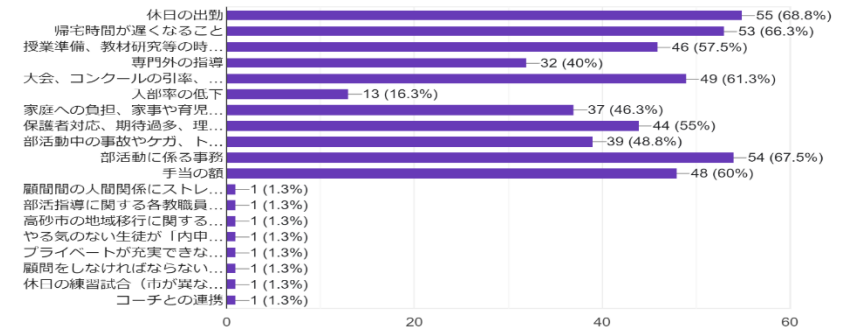
Q.あなたは、部活動指導に負担を感じていますか。  
(93件の回答)



Q.あなたは、部活動指導にやりがいや楽しさを感じますか。  
(93件の回答)



Q.部活動指導は、どのような負担を感じていますか。  
(80件の回答)

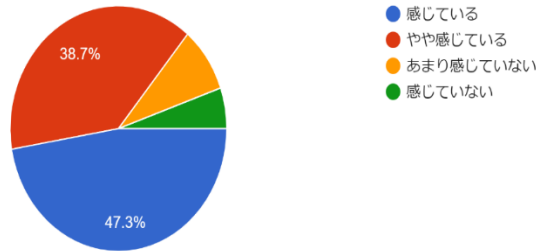


高砂市中学校教職員アンケートの結果抜粋  
(実施期間：令和6年9月6日(金)～9月20日(金))

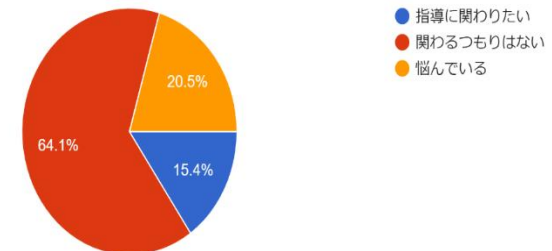
## アンケート結果

### ●アンケート結果

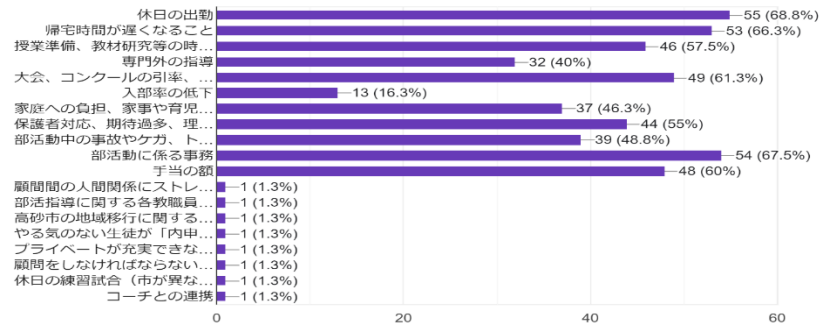
Q.あなたは、部活動指導に負担を感じていますか。  
(93 件の回答)



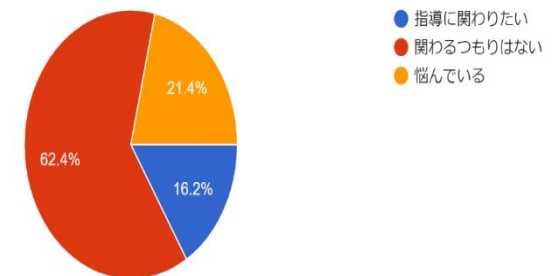
Q.休日の部活動にかわって地域クラブとなった場合、兼職兼業申請し、指導へ関わりたいですか。  
(117 件の回答)



Q.部活動指導は、どのような負担を感じていますか。  
(80 件の回答)



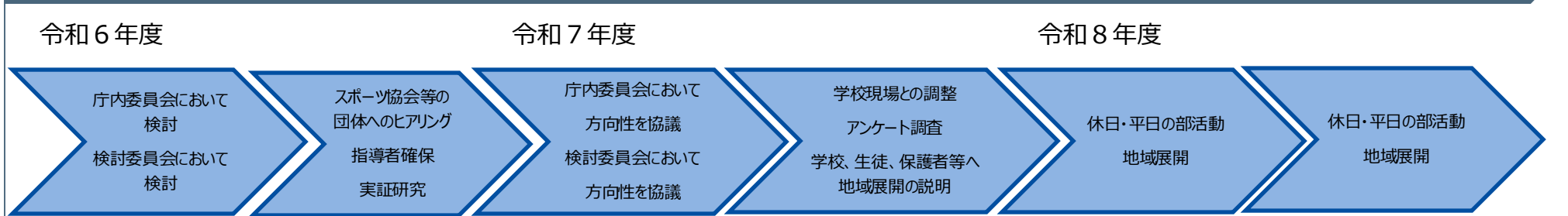
Q.部活動にかわって、平日を含め完全に地域クラブとなった場合、兼職兼業申請し、指導へ関わりたいですか。  
(117 件の回答)



高砂市中学校教職員アンケートの結果抜粋  
(実施期間：令和6年9月6日(金)～9月20日(金))

# 2.実証内容と成果

## 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



### 部活動地域展開準備

- ・部活動コーディネーター配置
- ・部活動の在り方について方針検討
- ・庁内委員会による検討
- ・検討委員会による検討
- ・スポーツ協会、文化連盟、自治会、地域企業小、中学校PTAへ地域移行の趣旨説明
- ・学校、各種団体等との調整  
(活動団体及び指導者の確保)
- ・部活動の地域移行に係る実証研究  
サッカー部年間通じて休日50回  
ソフトボール部、陸上部他各6回  
(課題把握、地域移行費用概算等)
- ・部活動地域展開に向けた研修
- ・地域連携移行活動に伴う予算化
- ・アンケート調査

### 部活動地域展開段階的实施

- ・部活動コーディネーター配置
- ・部活動の在り方について方針策定
- ・庁内委員会による協議
- ・検討委員会による協議
- ・学校、各種団体等との調整  
(活動団体及び指導者の確保)
- ・部活動の地域移行に係る実証研究(休日)  
サッカー部、ソフトボール部、陸上部  
年間通じて休日50回  
他の運動部、文化部実証研究30回予定  
(課題把握、地域移行費用概算等)
- ・部活動地域展開推進計画策定
- ・部活動地域展開の学校、生徒、保護者へ説明
- ・部活動地域展開に向けた研修
- ・地域連携移行活動に伴う予算化
- ・アンケート調査

### 部活動地域展開段階的实施

- ・部活動コーディネーター配置
- ・段階的に地域展開
- ・庁内委員会による協議
- ・検討委員会による協議
- ・地域展開連絡会の設置
- ・地域指導者の研修
- ・活動における運営団体の検討
- ・部活動の地域移行に係る実証研究  
運動部年間通じて休日50回  
文化部年間通じて休日50回  
(課題把握、地域連携移行費用概算等)
- ・部活動地域展開に向けた研修
- ・地域連携移行活動に伴う予算化
- ・地域クラブガイドラインの策定

# 3. 今後の方向性

## 地域展開の推進に向けたロードマップ(案)

### ●スケジュール(案)

- ・検討委員会、各種団体との連絡会、研修会、地域説明会を開催する。
- ・実証研究を重ね、段階的に地域展開を図る。

年度	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)
実施内容	中学校部活動							
			休日（平日も含む）実証研究 A （合同活動 現存地域クラブ） 休日（平日を含む）実証研究 B （運営管理 新規地域クラブ）			地域展開（地域クラブ） （地域展開年度は未定）		
			学校・生徒・保護者への説明					